
第 99 回

日本整形外科学会学術総会

抄 録 集 I

The 99th Annual Meeting of
the Japanese Orthopaedic Association

ABSTRACTS I

会 長 田 中 栄

(東京大学大学院医学系研究科外科学専攻感覚運動機能医学講座整形外科学)

会 期 令和 8 年 5 月 21 日(木)～ 5 月 24 日(日)

会 場 神戸コンベンションセンター

(神戸ポートピアホテル/神戸国際会議場/神戸国際展示場)

目 次

会長挨拶	5
理事長挨拶	7
抄録査読委員	8

総合案内

日程・会場	11
会場への交通案内図	13
会場案内図	14

お知らせとお願い

I. 参加者の皆様へ	23
II. 発表者の皆様へ	28
III. 口演発表機材とデータ受付について	29
IV. 紙ポスター発表者の皆様へ	31
V. デジタルポスター発表者の皆様へ	31
VI. 座長の皆様へ	34
VII. 質疑応答にて発言される皆様へ	34
VIII. 日整会教育研修単位を取得される皆様へ	34
IX. 他学会の単位取得について	37
X. 第72回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍特別研修会の開催について	38
XI. 第41回日本整形外科学会研修指導者講習会の開催について	38
XII. 第10回日本整形外科学会小児運動器疾患指導管理医師セミナーの開催について	38
XIII. Award 受賞者などのご紹介	39
XIV. 優秀演題賞のお知らせ	40

講演一覧

会長講演・基調講演・座談会・特別講演	
SICOT Special lecture・理事会提案講演	41
教育研修講演	42
招待講演	45
JOA/AAOS combined program: Instructional lecture	47
JOA/AAOS combined symposium	47
理事会提案シンポジウム	48
シンポジウム	49
日本整形外科学会奨励賞受賞者講演	51
ランチョンセミナー	52
アフタヌーンセミナー	56

日程表

第1日 5月21日(木)	58
第2日 5月22日(金)	60

第3日 5月23日(土)	62
第4日 5月24日(日)	64
一般演題紙ポスター 発表・討論	66
一般演題デジタルポスター(ミニオーラル) 発表・討論	68

演題目次

日本語	71
英語	127

抄 録

第1日 5月21日(木)	S1
第2日 5月22日(金)	S403

第99回 日本整形外科学会学術総会 親善スポーツ大会のご案内	巻末
--------------------------------------	----

第 99 回 日本整形外科学会学術総会の開催にあたって

会長 田中 栄
(東京大学大学院医学系研究科外科学専攻
感覚運動機能医学講座整形外科学)

このたび、第 99 回日本整形外科学会学術総会を、2026 年 5 月 21 日(木)から 24 日(日)までの 4 日間、兵庫県神戸市の神戸コンベンションセンターにて開催する運びとなりました。伝統ある本学会を主催させていただきますことは、身に余る光栄であると同時に、その重責に身の引き締まる思いでございます。開催にあたり、多大なるご支援を賜りました日整会役員、代議員、ならびに会員の皆様に、深く感謝申し上げます。

本学術総会のテーマ

日本整形外科学会は 2026 年に開設 100 周年という節目を迎えます。第 1 回総会が開催された大正 15 年(1926 年)から今日まで、1 世紀にわたる先達の情熱と努力が日本の整形外科学を世界に冠たる水準へと押し上げてきました。その偉大な歴史に対し、改めて深甚なる敬意を表します。

本学術総会は、「百年をつなぐ – A Bridge Between Past, Present, and Future」をメインテーマに掲げました。これは、整形外科領域における過去 100 年の進歩を検証し、次なる 100 年の発展を展望する場としたいという願いを込めたものです。

100 年前、第 1 回日本整形外科学会総会会長(假會長)を務められた田代義徳教授は「開会之辞」において学会設立に至った経緯を、「目的を同フスル、同學者が一堂ノ下ニ集リテ懇談的ニ知識ヲ交換スルヲ最モ必要ナリト信ズル」と述べられました。この言葉は、「自分たちの手で、この国の運動器医学を発展させなければならない」という不退転の決意と、未来への使命感の表明に他なりません。第 1 回総会では発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)の治療法や骨折の観血的・非観血的治療、さらには骨形成不全症の病態研究など、現在の整形外科につながるトピックスがすでに議論されていました。当時の非観血的治療の追求や病態解明への挑戦は、すべて「患者さんのためにより良い医療を届けたい」という純粋な情熱から生まれています。この 100 年間で診断・治療技術は飛躍的な進化を遂げ、専門分化も進みましたが、本学術総会では、学会創設の原点である「運動器医学発展への決意」と「患者中心の医療への情熱」を、皆様と再確認したいと考えております。

講演およびプログラムの概要

少子高齢化による学齢人口の急減に加え、国際社会における研究力の相対的低下が懸念される現在、日本の大学はまさにその真価と役割を根底から問い直される岐路に立っています。この未曾有の変革期において、基調講演では NPO 法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパン(AASJ)代表理事である西川伸一先生に「生命誕生から ChatGPT : 38 億年目の創発」と題してご講演いただきます。ChatGPT をはじめとする大規模言語モデルの登場が、生命における情報集約の様相と、古くから議論されてきた心身二元論の統合に新たな示唆を与えるという、興味深い視座をご提示いただく予定です。特別講演では 2001 年にノーベル化学賞を受賞された国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長の野依良治先生に「科学技術力は国家生存の条件である」というテーマでご登

壇いただきます。近年、日本の科学技術力の国際的プレゼンス低下が指摘され、特に医学分野では若手医師の研究への関心低下が憂慮されています。このような現状に対し、野依先生からは優れた科学技術が国家の存続を保障する上で不可欠であり、その実現には高度な研究とその担い手の育成・確保が必須である、という抜本的な刷新を促す力強いメッセージを頂戴いたします。さらに、自治医科大学学長の永井良三先生には、「医療変革期の臨床医学研究」というタイトルで、AIが臨床・研究に革命をもたらす可能性とともに、そのブラックボックス性、倫理、情報保護といった課題にも深く切り込み、臨床医学研究の新たな枠組みをご提唱いただく予定です。

シンポジウムにおいては、理事会企画として日本循環器病学会、日本糖尿病学会、日本消化器外科学会との合同セッションを含む16テーマを用意いたしました。また、各専門学会等からも60に及ぶシンポジウムをご提案いただいております。特別シンポジウムでは、基礎・臨床の第一線で活躍される先生方に「過去100年の進歩」をご講演いただくほか、AAOSとの合同シンポジウム・レクチャーでは、人工股関節・人工膝関節の最新トピックスを取り上げます。

また学術プログラムに加え、多角的な視点からの学びを深めるため、多彩なゲストをお迎えいたします。陸上競技元日本代表の為末大さんには「熟達論」についてご講演いただき、卓越した能力を育む本質に迫ります。また、プロフィギュアスケーターの八木沼純子さんを招いた座談会では、「女性アスリートにおける課題」に焦点を当て、その実情と解決に関する議論を深めます。

今回の一般演題募集では、応募総数は2,678題(日本語2,521題、英語157題)でした。会員の皆様には多数の応募をいただき、心より感謝申し上げます。査読審査の結果、口演661題、紙ポスター360題、デジタルポスター(ミニオーラル)742題の計1,763題(採択率65.83%)を採択とさせていただきます。ご多忙のなかで査読作業をお引き受けいただいた査読委員の皆様には、厚く御礼申し上げます。

また「日整会100周年特別企画」として、全国各大学の代表的な業績を一堂に集めたポスター展示を企画しております。各大学が誇る研究と歴史の詰まった渾身の展示を、ぜひ高覧ください。

新緑の美しい2026年5月、神戸の地にて皆様をお迎えし、実り多き議論が交わされることを心より楽しみにしております。

第 99 回 日本整形外科学会学術総会にあたって

公益社団法人 日本整形外科学会
理事長 河野博隆

日本整形外科学会は 1926 年の開設以来、いよいよ設立 100 年を迎えます。先人の不断の努力と会員の皆様の日々の臨床・研究・教育活動によって築かれてきたこの 100 年の歩みに深く敬意と感謝を表します。

第 99 回日本整形外科学会学術総会は、東京大学整形外科学教室の田中栄教授を会長として 2026 年 5 月 21 日(木)から 24 日(日)までの 4 日間、兵庫県神戸市の神戸コンベンションセンターにて開催されます。本学術総会は歴史を振り返るとともに、次の 100 年へとつなぐ知見と連携を構築する重要な機会です。

本学術総会では、中島康晴プロジェクトリーダーが陣頭指揮を執られてきた日整会 100 年プロジェクトの様々な企画が開催されます。100 年の歴史を振り返る『日整会 100 周年特別企画』ポスター展示をはじめ、領域横断的な運動器診療の啓発活動として、日本循環器学会、日本糖尿病学会、日本消化器外科学会の 3 学会との相互交流シンポジウムが行われます。専門分化が進む今日ですが、運動器診療が他の領域に大きな影響を及ぼすことを、他の診療科に認識していただくと共に、我々整形外科医も実態を把握することが必要です。また、理事会提案企画として、疾患レジストリ (JOANR) に関するシンポジウムなどの他に、大きな変化を遂げている「医学教育」に関する教育研修講演が行われます。今後、運動器診療が適切に発展するためには、医師育成の根幹である卒前・卒後教育に学会として関わっていく重要性の認識を共有する機会になることを願っています。

田中栄会長は本総会のテーマを「百年をつなぐー A Bridge Between Past, Present, and Future」と定められました。本テーマには、過去の知見を礎に現在の課題に対応し、未来に向けた新たな技術・教育・国際連携を推進していくという強い意志が込められています。開設 100 年の機会を活かした素晴らしいテーマです。AI や再生医療など急速に進展する医療技術の導入とともに、少子高齢化や医師偏在、働き方の改革といった社会的課題に対処するためには、学際的な協働と次世代の育成が不可欠です。そのテーマを具現化すべく、田中会長および東京大学整形外科学教室のスタッフの先生方、そして運営関係者の尽力により多彩なプログラムが用意されました。本学術総会の準備にご尽力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

学術総会は、国内外の整形外科医ならびに運動器研究に携わる医師・研究者が一堂に会し、研究成果の発表と活発な議論、多くの講演やシンポジウムを通じて整形外科学の発展に資するとともに、会員相互および国内外からのご来賓との交流や親睦を深める場として重要な役割を果たしています。

神戸は歴史と文化に富む魅力的な都市です。5 月の穏やかな季節に、本学術総会が学術的交流と親睦を深める場となることを願っております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

抄録査読委員

相澤俊峰	青木 薫	青木航洋	青木隆明	青木秀之	赤丸智之
秋末敏宏	秋山 達	秋山治彦	明田浩司	浅井秀司	麻生邦一
麻生伸一	安達伸生	尼子雅敏	新井 健	新井祐志	新井嘉容
有 菌 剛	有馬秀幸	猪狩勝則	生田国大	池内昌彦	池上仁志
池上博泰	池口良輔	池田和男	伊崎輝昌	石井桂輔	石川正和
石毛徳之	石島旨章	石橋英明	石橋恭之	伊勢福修司	市 堰 徹
市原理司	市村正一	糸魚川善昭	伊藤隆安	伊藤 浩	井戸田仁
糸永一朗	稲垣克記	稲葉 裕	稲見 聡	乾健太郎	乾 貴博
乾 洋	井上 玄	井上 雄	井上裕章	井上泰一	井上雅之
井口浩一	猪瀬弘之	射場浩介	今井晋二	今井教雄	今釜史郎
今釜 崇	今出真司	今西淳悟	今村惠一郎	今村宏太郎	伊室 貴
岩倉菜穂子	岩崎倫政	岩崎 博	岩瀬敏樹	岩渕真澄	岩本 潤
岩本卓士	上井 浩	上田泰久	上野起功	植原健二	上原浩介
上原将志	植松卓哉	植山和正	牛久智加良	牛田享宏	内尾祐司
内山勝文	内山善康	宇野耕吉	占部 憲	瓜田 淳	江口 和
江幡重人	蛭名耕介	江森誠人	遠藤健司	遠藤健次	遠藤裕介
遠藤 誠	王谷英達	王寺享弘	真 賢一	大江隆史	大川孝浩
大越康充	大幸英至	大島康史	大関信武	太田信彦	大谷和裕
大谷晃司	大谷俊郎	大槻周平	大槻文悟	大鳥精司	大野一幸
大野貴敏	大場哲郎	大橋正幸	大林 治	大平 卓	大村威夫
岡久仁洋	岡 史朗	岡崎 賢	岡崎裕司	岡嶋啓一郎	岡田誠司
緒方直史	岡田 文	岡田祐司	岡野匡志	岡上裕介	岡本秀貴
小川寛恭	小川宗宏	沖本信和	奥村栄次郎	生越 章	尾崎敏文
尾崎 誠	長田伝重	小澤浩司	小田剛紀	小田 良	落合信靖
鬼木泰成	小野孝一郎	尾上英俊	小野寺智洋	面川庄平	折田純久
甲斐史敏	柿木良介	加来信広	角谷賢一朗	梶谷 充	粕川雄司
片桐洋樹	片桐浩久	加藤欽志	加藤仁志	加藤壮紀	加藤 健
加藤悌二	加藤裕幸	加藤相勲	門野夕峰	兼氏 歩	金子慎二郎
金子晴香	金子陽介	加畑多文	鎌田浩史	神谷光広	亀井直輔
亀山 真	唐杉 樹	軽辺朋子	川口謙一	川口善治	川崎恵吉
川島寛之	河野俊介	河野博隆	河野友祐	川端茂徳	川端走野
河村健二	神崎浩二	神田健博	菅野晴夫	北 潔	北川知明
北川泰之	北村和也	北村拓也	木下浩一	木村 敦	木村 正
木村由佳	喜安克仁	金藤直樹	釘宮典孝	工藤太郎	工藤理史
国定俊之	窪田綾子	久保田聡	久保田光昭	熊井 司	熊谷 研
熊谷玄太郎	久米田秀光	栗原良次	栗山新一	黒木龍二	黒田 隆
黒田良祐	黒柳 元	下条竜一	見目智紀	國府田正雄	河野秀樹
河村真吾	古賀英之	小嶋俊久	小谷明弘	児玉成人	後藤公志
後藤昌史	小西宏昭	小林 秀	小林徹也	小林直実	小林由香

五味淵聡志	近藤英司	雜賀建多	税田和夫	齋田良知	齋藤貴徳
齋藤直人	斎藤晴樹	齊藤英知	斎藤充	西能健	西良浩一
幸博和	佐浦隆一	三枝徳栄	酒井昭典	酒井大輔	坂井孝司
酒井紀典	酒井良忠	坂根正孝	坂本昭夫	坂本優子	笹生豊
笹沼秀幸	佐粧孝久	佐竹寛史	佐藤和毅	佐藤公昭	佐藤公治
佐藤光太郎	佐藤正人	佐藤行紀	鮫島弘武	佐本憲宏	澤口毅
重松英樹	穴戸孝明	設楽仁	篠田裕介	篠原光	四宮陸雄
柴田陽三	下崎英二	下瀬省二	白井寿治	白土修	白旗敏之
神藤佳孝	神野哲也	神保幸太郎	菅野伸彦	洲鎌亮	助川浩士
須佐美知郎	鈴木亨暢	鈴木朱美	鈴木克侍	鈴木伸幸	鈴木秀典
須田康文	湊藤啓広	須藤英毅	砂川融	関庄二	関矢一郎
曾雌茂	高尾正樹	高垣智紀	高木辰哉	高木博	高木理彰
高窪祐弥	高澤祐治	高瀬勝己	高橋謙治	高橋淳	高橋伸典
高橋宏寛	高橋寛彦	高平尚伸	田上敦士	高見正成	瀧澤勉
武井寛一	竹上靖彦	竹下克志	竹島憲一郎	竹葉淳	竹林庸雄
武部恭彦	田鹿毅哉	田島吾郎	田島卓也	田尻康人	多田薫
館靖彦	橋俊哉	辰村正紀	立岩俊之	田仲和宏	田中太晶
田中啓之	田中眞希	田中康仁	田中義孝	谷口晃	谷口慎一郎
谷口直史	谷口昇恒	谷島伸二	谷野弘昌	種市洋也	崔賢民
筑田博隆	千葉恒幸	津田英一	筒井俊二	角田雅也	椿崇仁
鶴上浩樹	鶴田敏史	鉄永智紀	出村諭透	寺井秀富	寺門淳
戸川大輔	寺本篤也	寺本司光	土肥博之	土井田稔	當銘保則
鳥越知明	戸口田淳也	鳥取部光司	富永博一	豊岡青海	豊田耕一郎
中川種史	内藤聖人	長江将輝	中川晃一	中川晃一	中川匠
中嶋秀明	中川裕介	中川幸洋	中佐智幸	中島新晴	中島勸悟
中瀬順介	永島英樹	中西一夫	長島正樹	中島康晴	中野正人
中原龍一	永田行男	中前稔生	中西一義	永野昭仁	中村順一
中村卓司	中前敦雄	中村知樹	中村英一郎	中村茂	中村春彦
中村博亮	中村俊康	中村知樹	中村智祐	中村憲正	中村春彦
中山寛	中村洋憲	中村雅洋	中村雅也	永谷祐子	中山口バート
二階堂琢也	中山政憲	名倉武雄	名越慈人	南里泰弘	新関祐美
西田圭一郎	二木康夫	西浦康正	西川真史	西川哲夫	西庄俊彦
西本章	西田康太郎	西田淳	西田佳弘	西中直也	西村和博
野沢雅彦	二村昭元	野坂光司	野崎正浩	野澤聡	野澤大輔
橋爪洋雄	野尻英俊	野田知之	萩原敬一	箱崎道之	橋口兼久
長谷川利雄	橋詰博行	橋本功裕	橋本健史	橋本祐介	長谷隆生
濱田英敏	長谷川智彦	長谷川正裕	馬場智規	濱井敏	浜田大輔
林申也	浜田佳孝	早川和恵	早川克彦	林克洋	林孝乾
原仁美	林正徳彦	羽山哲生	原章	原浩史	原俊彦
播谷勝三	原文彦	原正文	原良太	原口直樹	原藤健吾
平井高志	波呂浩孝	半田忠洋	東野恒作	日方智宏	日野和典
	平岡弘二	平澤直之	平田仁	平野徹	廣瀬大祐

深田 悟	深谷 泰士	福岡 宗良	藤井 英紀	藤井 裕之	藤井 政徳
藤川 謙二	藤田 浩二	藤田 順之	藤卷 良昌	藤原 智洋	麩谷 博之
船尾 陽生	舟崎 裕記	古矢 丈雄	別所 雅彦	朴木 寛弥	星野 傑
星野 裕信	星野 祐一	細金 直文	堀井 恵美子	堀内 圭輔	堀内 博志
堀口 泰輔	本郷 道生	本間 康弘	前 達雄	前澤 克彦	前田 和洋
前田 真吾	前野 耕一郎	正岡 利紀	眞島 任史	間島 直彦	松井 健太郎
松浦 正典	松下 功	松下 隆	松下 雄彦	松下 雅樹	松田 秀一
松原 三郎	松原 孝夫	松原 正明	松峯 昭彦	松村 福広	松村 昇
松本 和	松本 光司	松本 知之	松本 守雄	松本 嘉寛	松山 幸弘
圓尾 圭史	丸木 秀行	三島 健一	三島 初	三谷 玄弥	三谷 茂
三井 寛之	三橋 繁	南出 晃人	箕田 行秀	三幡 輝久	三原 久範
宮内 晃	宮腰 尚久	宮坂 輝幸	宮崎 正志	宮島 茂夫	宮田 重樹
宮武 和正	宮本 健史	宮本 英明	宮本 亘	名井 陽	三好 直樹
宗像 裕太郎	宗廣 鉄平	村井 肇	村上 秀樹	村上 英樹	村上 玲子
村瀬 剛	村瀬 正昭	村田 泰章	村松 俊樹	目良 恒	最上 敦彦
持田 勇一	望月 友晴	本村 悟朗	元村 拓	桃原 茂樹	森 幹士
森 成志	森 優	森井 健司	森澤 佳三	森下 浩一郎	森下 忍
森島 達観	森田 裕己	森田 充浩	森平 泰	森本 忠嗣	森山 正敏
八木 満	矢澤 康男	安井 哲郎	安井 洋一	安田 義	安永 裕司
矢野 紘一郎	八幡 直志	矢吹 省司	山門 浩太郎	山口 智志	山口 眞一
山崎 生久男	山下一 太	山下 敏彦	山下 仁司	山田 圭	山田 晋
山田 宏	山田 光子	大和 雄	山中 芳	山本 謙吾	山本 卓明
山本 豪明	山本 宣幸	山本 美知郎	横田 淳司	横村 伸夫	吉井 一郎
吉井 俊貴	吉井 雄一	吉川 泰司	吉田 知史	吉田 進二	吉田 英彰
吉田 昌明	吉田 雅人	吉田 雅之	吉村 一朗	米倉 暁彦	米澤 幸平
米本 光一	龍啓 之助	若林 健二郎	和田 簡一郎	和田 卓郎	渡邊 耕太
渡辺 航太	渡邊 敏文	渡邊 英明	渡辺 雅彦	渡部 欣忍	渡會 恵介

(648名, 五十音順, 敬称略)

総合案内

日程・会場

第99回 日本整形外科学会学術総会

会期：令和8年5月21日(木)，22日(金)，23日(土)，24日(日)

会場：神戸コンベンションセンター

神戸ポートピアホテル 〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目10-1

神戸国際会議場 〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目9-1

神戸国際展示場 〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目11-1

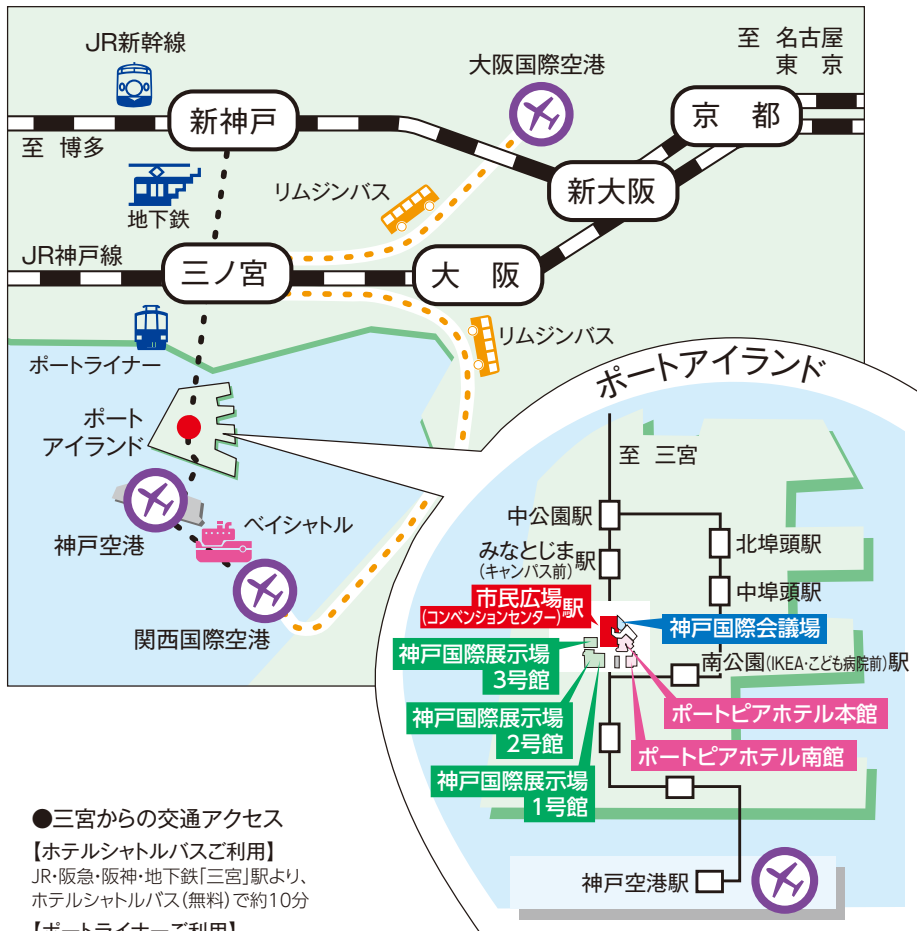
会場名	会場		座席数・内容	
第1会場	神戸ポートピアホテル	ポートピアホール	1,700	開会式，各種講演， 閉会式 各種講演
第2会場		大輪田A	500	
第3会場		大輪田B	500	
第4会場		大輪田C	500	
第5会場		偕楽1	300	
第6会場		偕楽2	300	
第7会場		偕楽3	300	
第8会場		トパーズ	300	
第9会場		サファイア	150	
第10会場		神戸国際会議場	メインホール	
第11会場	国際会議室		300	
第12会場	神戸国際展示場	1号館2F展示室B	600	
第13会場		2号館3F3A会議室	350	
紙ポスター発表		1号館1F	ポスター発表・閲覧	
	2号館1F			
	3号館1F			
デジポス ブース1	神戸国際会議場	501	ポスター発表・閲覧	
デジポス ブース2				
デジポス ブース3		502		
デジポス ブース4				
デジポス ブース5		504		
デジポス ブース6		505		

会場名	会場		座席数・内容
ハンズオン セミナー会場	神戸国際展示場	2号館 2F 2A 会議室	ハンズオンセミナー
		2号館 3F 3B 会議室	
ワークショップ 会場	神戸国際会議場	401 + 402	ワークショップ
展示会場	神戸国際展示場	1号館・2号館・3号館	紙ポスター・デジタルポスター閲覧 企業展示会、休憩コーナー ネームカード発行 ※5月20日(水)のみ定時社 員総会会場前で発券します
参加章 発券窓口		1号館 2F 展示室 A	
総合案内	神戸国際展示場	2号館 2F 展示室 A	各種案内
	神戸ポートピアホテル	和楽	
	神戸国際会議場	国際会議室前ホワイエ	
PCプレビュー センター	神戸国際展示場	2号館 2F 展示室 A	口演発表データ受付 (デジタルポスターは 事前アップロード制)
	神戸ポートピアホテル	和楽・大輪田前ホワイエ	
	神戸国際会議場	国際会議室前ホワイエ	
クローク	神戸国際展示場	2号館 2F 展示室 A	クローク
		3号館	
	神戸ポートピアホテル	本館 B1F・南館 1F	
	神戸国際会議場	B1F	

公益社団法人日本整形外科学会 理事会・会長選挙・定時社員総会

内容	日時	会場
理事会	9:00~12:00	神戸ポートピアホテル サファイア
会長選挙	5月20日(水) 13:00~13:10	神戸ポートピアホテル 大輪田 AB
定時社員総会	13:10~18:00	

会場への交通案内図



●三宮からの交通アクセス

【ホテルシャトルバスご利用】

JR・阪急・阪神・地下鉄「三宮」駅より、ホテルシャトルバス(無料)で約10分

【ポートライナーご利用】

JR・阪急・阪神・地下鉄「三宮」駅より、ポートライナーで約10分
「市民広場(コンベンションセンター)」駅下車すぐ

【タクシーご利用】

JR・阪急・阪神・地下鉄「三宮」駅より、約10分
約1,500円

●新神戸駅からの交通アクセス

【地下鉄・ポートライナーご利用】

市営地下鉄「新神戸」駅より「三宮」駅へ、約2分
ポートライナーに乗り換え
「市民広場(コンベンションセンター)」駅へ、約10分

【タクシーご利用】

「新神戸」駅より約20分 約2,500円

●神戸空港からの交通アクセス

【ポートライナーご利用】

「神戸空港」駅より、ポートライナーで約8分
「市民広場(コンベンションセンター)」駅下車すぐ

【タクシーご利用】

「神戸空港」駅より約10分 約1,500円

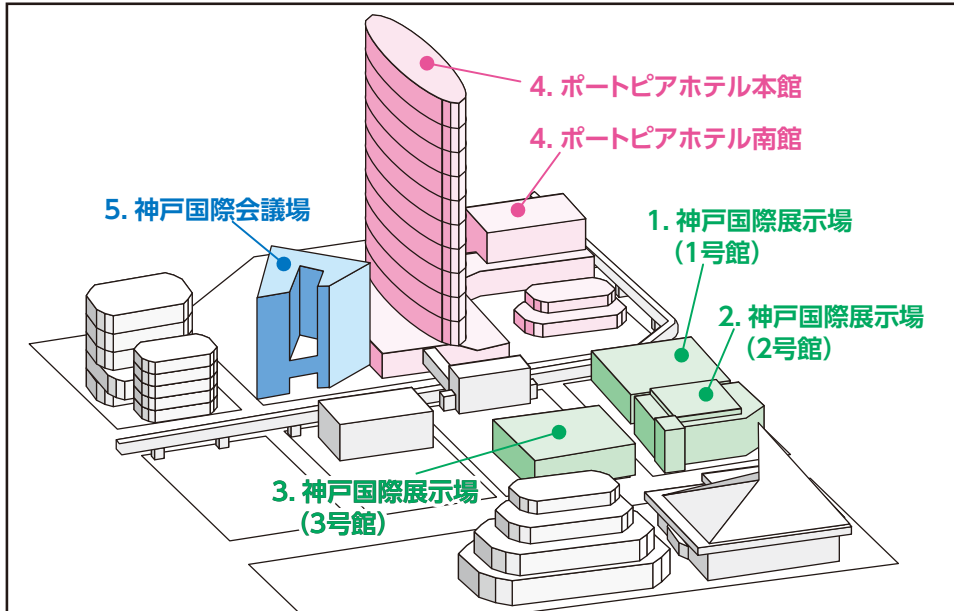
●関西国際空港からの交通アクセス

リムジンバスで「三宮」駅まで約70分
神戸ベイシャトルで「神戸空港」駅まで約30分

●大阪国際空港(伊丹)からの交通アクセス

リムジンバスで「三宮」駅まで約40分

会場案内図



1. 神戸国際展示場(1号館)

参加章発券窓口	(2F)
総合案内	(2F)
クローク	(2F)
PCプレビューセンター	(2F)
日整会100周年特別企画	(2F)
第12会場	(2F)
企業展示	(1F)
紙ポスター	(1F)
ポスター座長受付	(1F)
デジタルポスター閲覧	(1F)
充電コーナー	(1F)

2. 神戸国際展示場(2号館)

第13会場	3A会議室	(3F)
ハンズオンセミナー第1会場	2A会議室	(2F)
ハンズオンセミナー第2会場	3B会議室	(3F)
東京大学整形外科120周年記念展示		(1F)
優秀ポスター賞候補演題		(1F)
企業展示		(1F)
紙ポスター		(1F)
ポスター座長受付		(1F)

3. 神戸国際展示場(3号館)

デジタルポスター閲覧	(1F)
充電コーナー	(1F)
おもてなしコーナー	(1F)
コンgresバッグ配布所	(1F)
スタンプラリー景品交換所	(1F)
企業展示	(1F)
紙ポスター	(1F)
ポスター座長受付	(1F)
クローク	(1F)
充電コーナー	(1F)

4. ポートピアホテル(本館)

総合案内	ロビー	(B1)
PCプレビューセンター	和楽	(B1)
休憩スペース	和楽	(B1)
第5会場	偕楽1	(B1)
第6会場	偕楽2	(B1)
第7会場	偕楽3	(B1)
クローク	ロビー	(B1)
救護室	CSルーム	(1F)

(南館)

PCプレビューセンター	大輪田前ロビー	(1F)
第1会場	ポートピアホール	
第2会場	大輪田A	(1F)
第3会場	大輪田B	(1F)
第4会場	大輪田C	(1F)
第8会場	トバース	(B1)
第9会場	サファイア	(B1)
日本整形外科学会100年のあゆみパネル展示		(1F)
クローク		(1F)
レディースルーム		(B1)

5. 神戸国際会議場

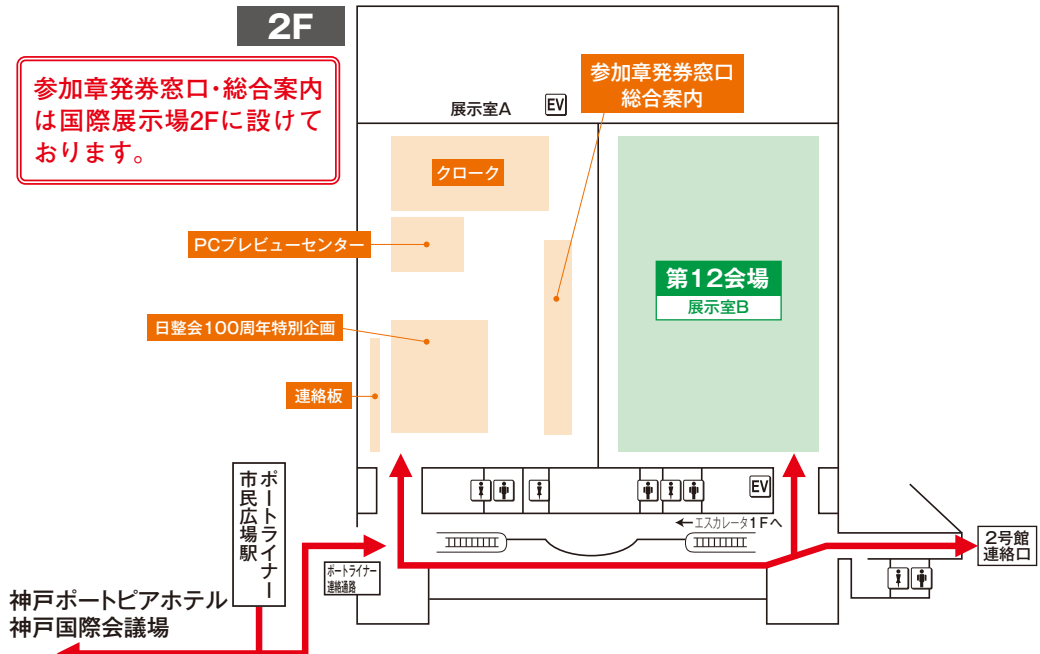
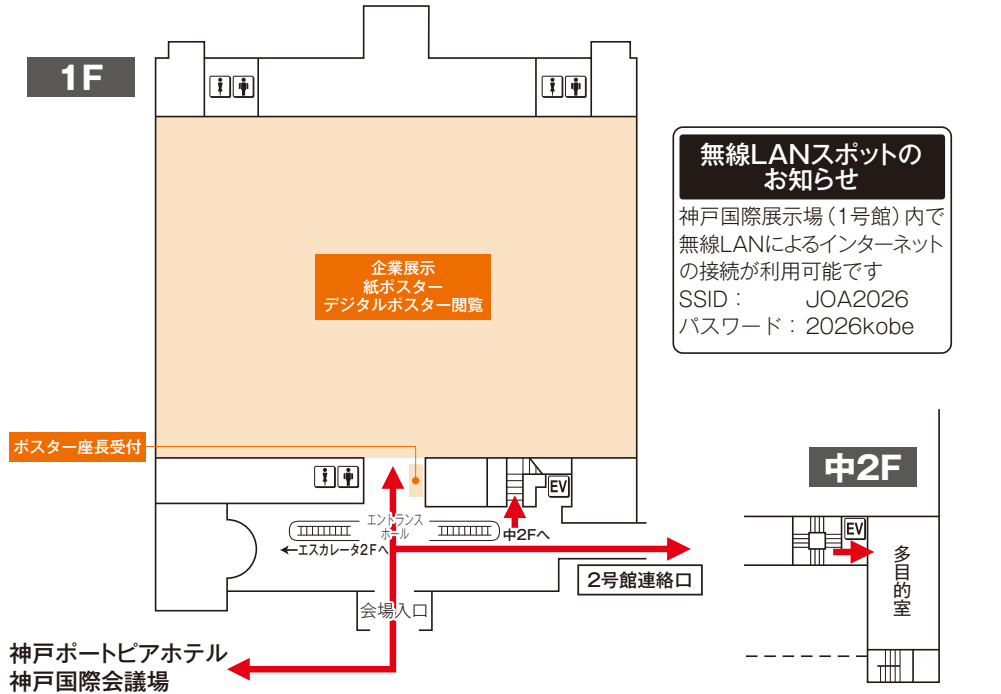
PCプレビューセンター	ロビー	(3F)
第10会場	メインホール	(1F)
第11会場	国際会議室	(3F)
ワークショップ会場	401+402	(4F)
デジタルポスターブース1~6		
	501、502、504、505	(5F)
デジタルポスター座長受付	ロビー	(5F)
休憩コーナー	ホワイエ	(3F)
クローク		(B1)

無線LAN スポットの お知らせ

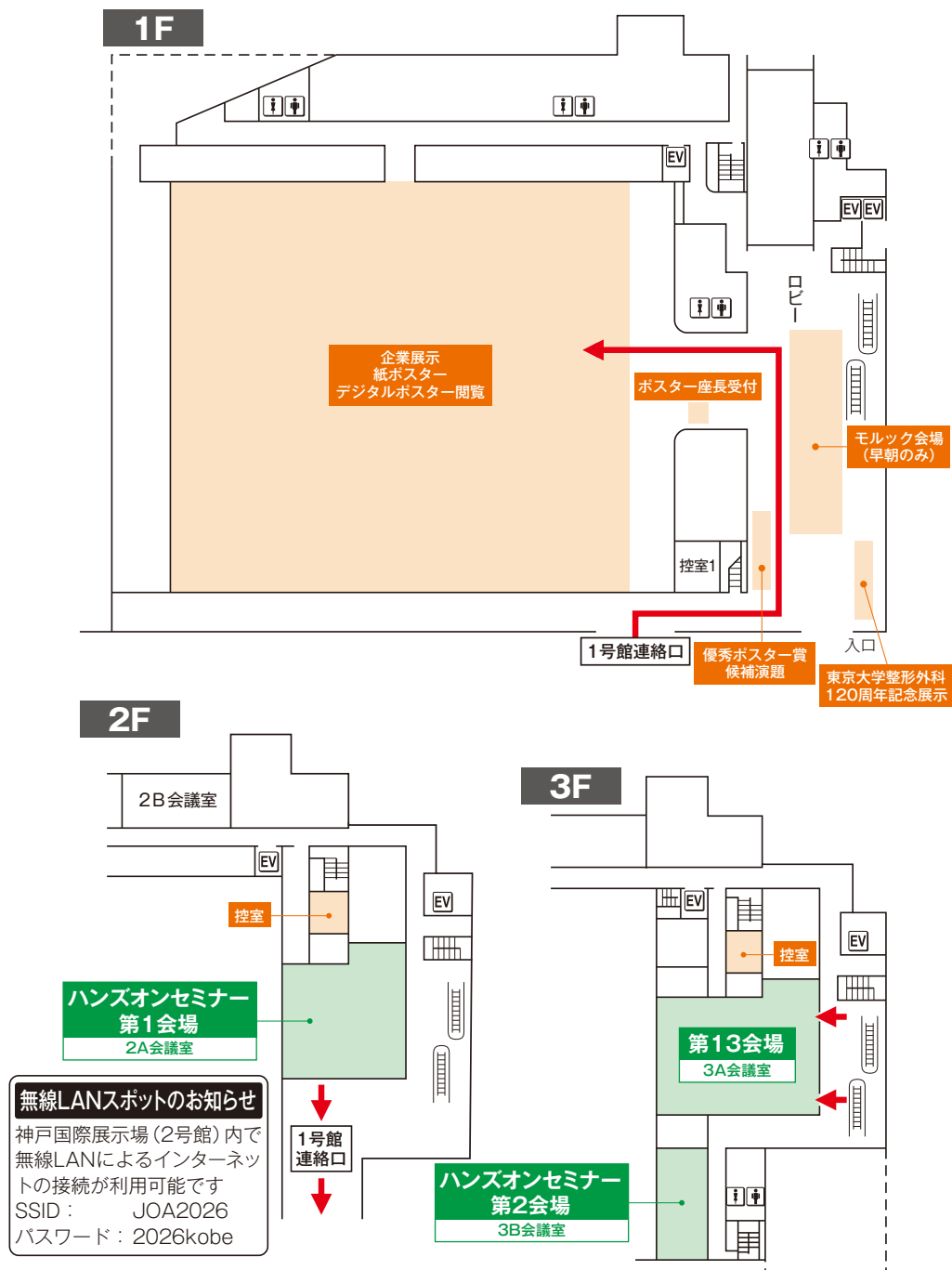
下記の6施設で無線LANがご利用いただけます。

神戸国際展示場1号館	神戸国際展示場2号館
神戸国際展示場3号館	神戸国際会議場
SSID : JOA2026	パスワード : 2026kobe
ポートピアホテル本館	ポートピアホテル南館
SSID : PORTOPIA_HOTEL	パスワード : portopia

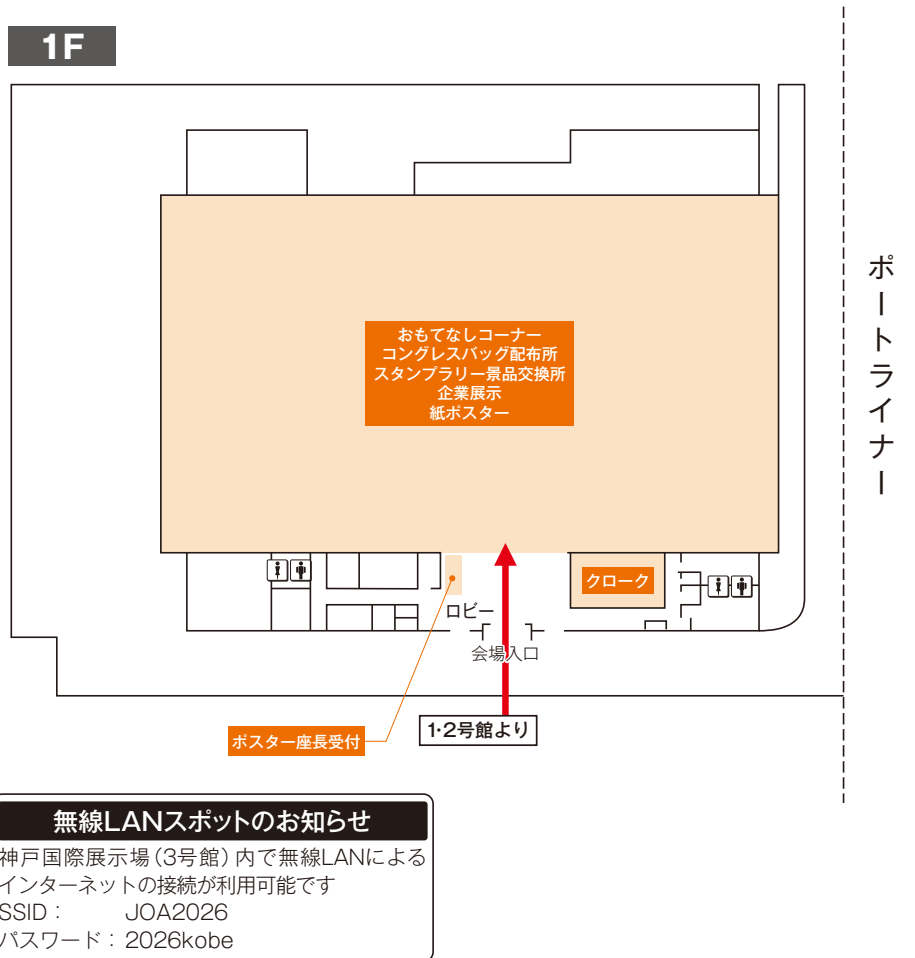
1. 神戸国際展示場(1号館)



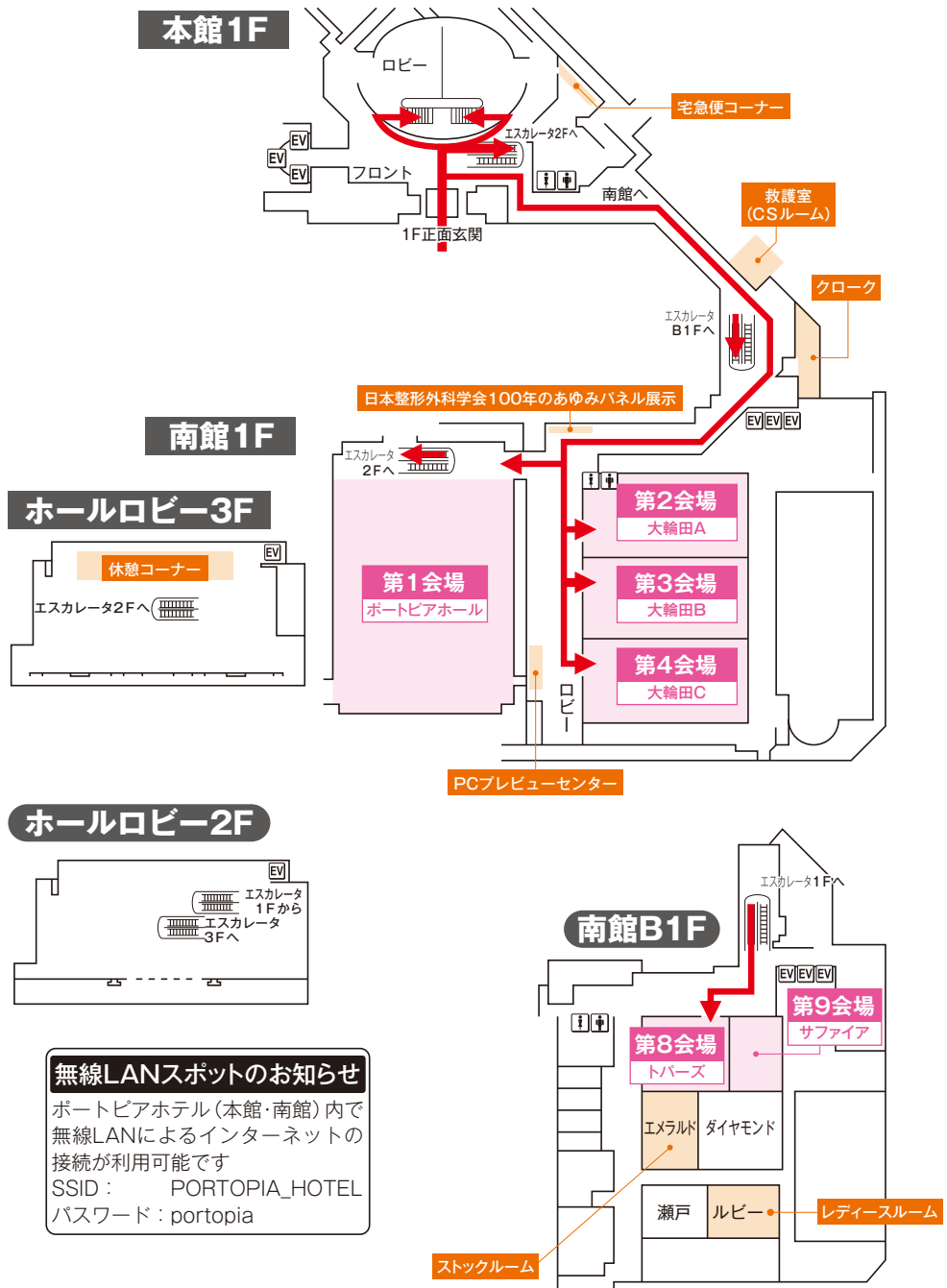
2. 神戸国際展示場(2号館)



3. 神戸国際展示場(3号館)

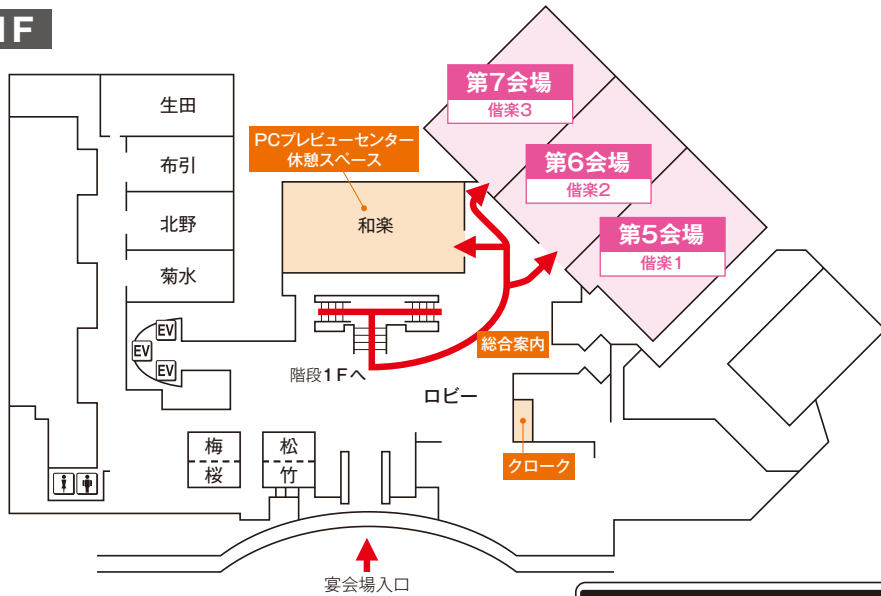


4. ポートピアホテル(本館・南館)



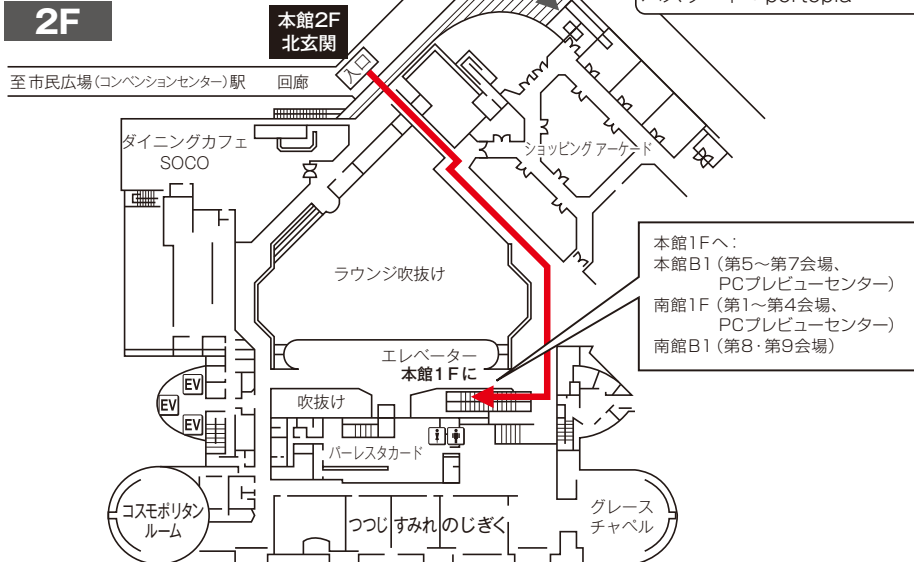
4. ポートピアホテル(本館)

B1F



※神戸国際会議場(第10・11会場)へ
神戸国際会議場連絡通路

2F



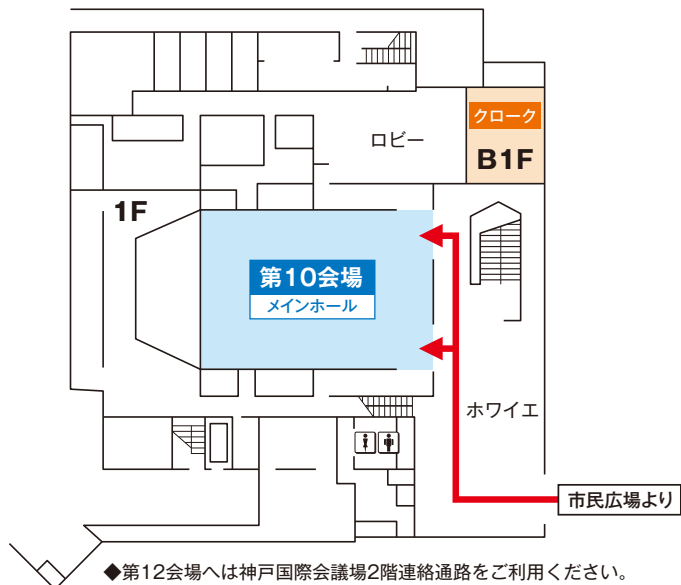
無線LANスポットのお知らせ
 ポートピアホテル(本館)内で無線LANによるインターネットの接続が利用可能です
 SSID: PORTOPIA_HOTEL
 パスワード: portopia

本館1Fへ:
 本館B1 (第5~第7会場、PCプレビューセンター)
 南館1F (第1~第4会場、PCプレビューセンター)
 南館B1 (第8・第9会場)

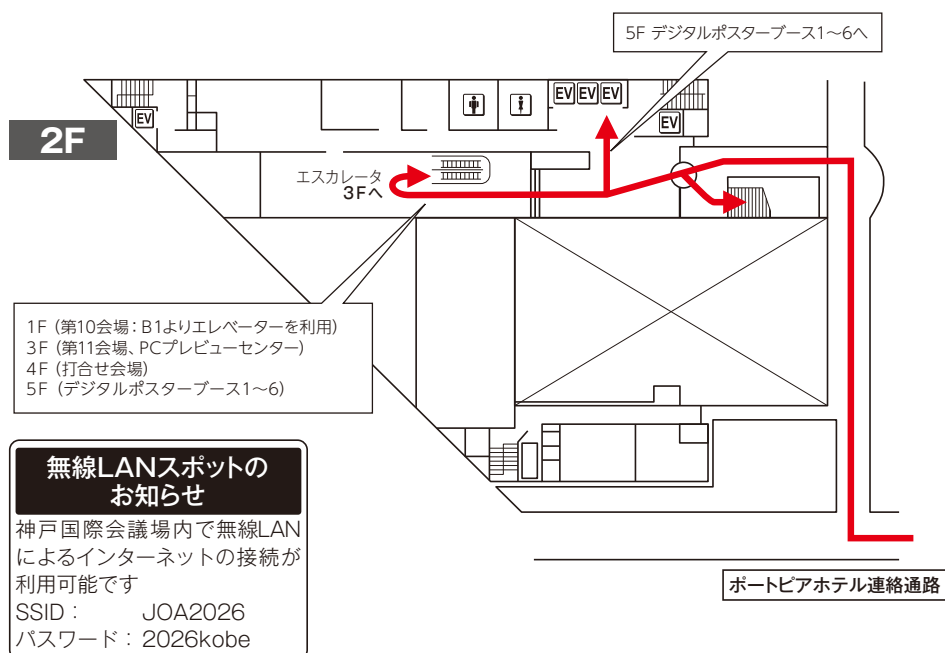
◆南館へは本館1階から連絡通路をご利用ください。

5. 神戸国際会議場

1F

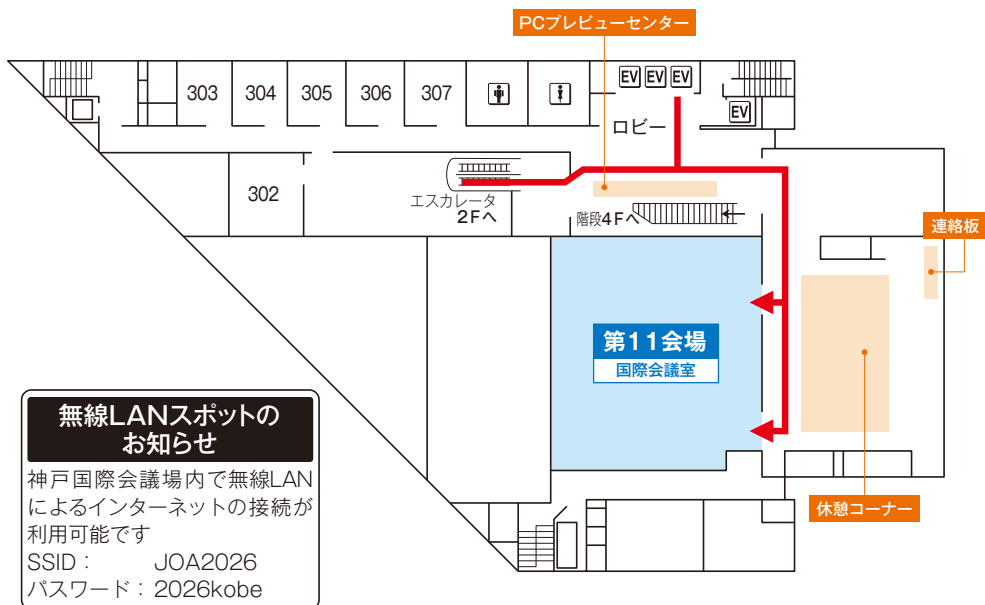


2F

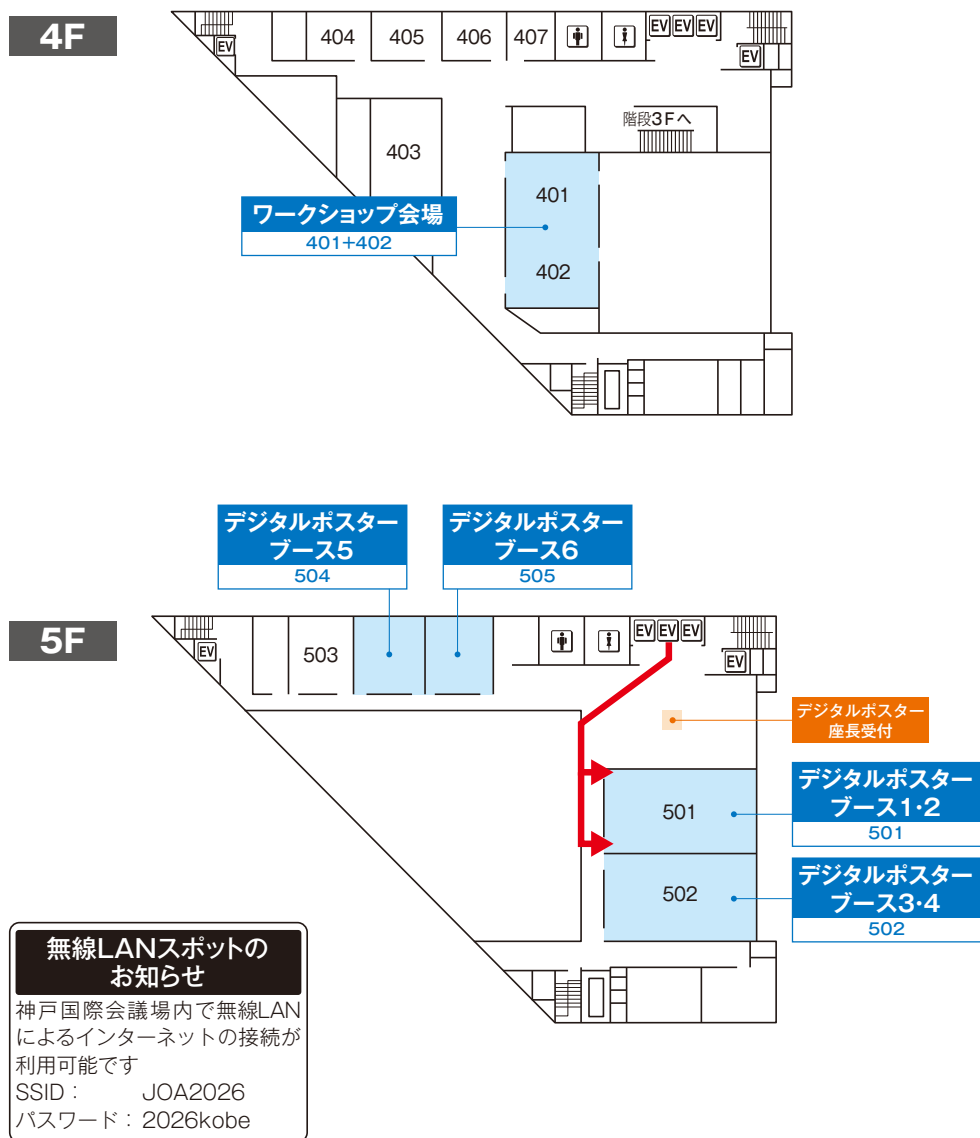


5. 神戸国際会議場

3F



5. 神戸国際会議場



お知らせとお願い

I. 参加者の皆様へ

● 開催形式について

本学術総会は現地開催を行い、その後の一定期間（約1カ月程度を予定）に、インターネットを利用したオンデマンド視聴ができる「ハイブリッド開催」といたします。来場可能な先生はどうぞ会場にお越しください。会期当日にLIVE配信は行いませんので、現地参加が難しい先生方は、後日オンデマンド形式でご参加いただくことが可能です。

オンデマンドでは、会期中に収録した一部の講演・シンポジウム等を視聴いただけます。一般演題のオンデマンド配信はございません。オンデマンド配信の対象講演は、学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)をご覧ください。

場合により開催方針が変更となる場合がありますので、最新の情報は学術総会ホームページにてご確認をお願いします。

1. 参加登録

(1) 参加登録費

対象者	登録	参加登録費	備考
1. 日本整形外科学会 会員 (不課税)	早期参加登録	21,000 円	日整会教育研修単位を事前に申し込むためには参加登録が必要です。
	会期中・後期参加登録	25,000 円	
2. 日本整形外科学会 非会員 (消費税 10%を含む)	早期参加登録	23,100 円 (21,000 円+消費税 10%)	日整会準会員・賛助会員を含む
	会期中・後期参加登録	27,500 円 (25,000 円+消費税 10%)	
3. 研修会員(不課税)	早期・会期中・後期参加登録	5,000 円	日整会教育研修単位を事前に申し込むためには参加登録が必要です。
4. 初期臨床研修医・メディカルスタッフ(消費税 10%を含む)	早期・会期中・後期参加登録	5,500 円 (5,000 円+消費税 10%)	主任教授または所属長のサイン(捺印)の入った身分証明書が必要です。
5. 学部学生(大学院生除く)	早期・会期中・後期参加登録	無料	

早期参加登録期間：令和8年3月4日(水)正午～5月19日(火)16時

会期中参加登録期間：令和8年5月20日(水)10時～5月24日(日)15時

後期参加登録期間：令和8年6月12日(金)正午～7月8日(水)16時

学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)から手続きを行ってください。早期・会期中・後期、すべての参加登録はオンライン登録・オンライン決済です。会場で現金による受付は行いませんのでご注意ください。

当日の混雑を避けるため、ぜひ早期参加登録をご利用ください。

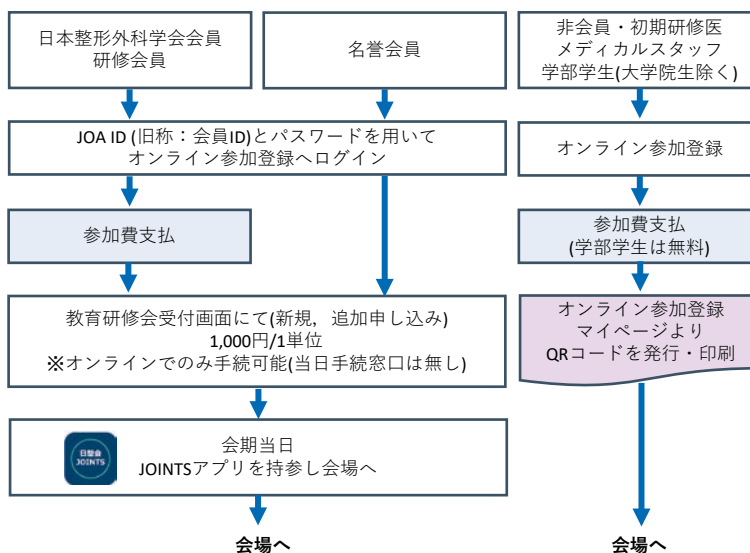
(2) 参加章発券窓口受付時間

受付時間		受付場所
前日	5月20日(水)12:00～16:00	神戸ポートピアホテル 南館 1F 大輪田前ホワイエ
第1日	5月21日(木) 7:00～18:30	神戸国際展示場 1号館 2F 展示室 A
第2日	5月22日(金) 7:00～18:00	
第3日	5月23日(土) 7:00～18:30	
第4日	5月24日(日) 7:00～15:00	

(3) 参加登録方法(以下の「受付の流れ」を併せてご参照ください)

「受付の流れ」

早期・会期中：参加登録フローチャート(オンラインのみ)



JOINTSアプリ以外に以下の方法でQRコードの表示が可能です。
 ・PC等ブラウザ経由の会員ページより(PDF)表示
 ・PDFをスマホやPCに保存して表示
 ・PDFを紙に印刷して表示

※JOA ID(旧称:会員ID)は、会員カード等に記載されていた6ケタの数字です。

<メール>

対応時間：平日 9：00 ～ 17：00(土日祝，年末年始除く)

受付時間：24 時間

メールアドレス：joints-support@move-net.jp

なお，決済はすべてオンラインカード決済になります。使用可能なカードは Visa, Mastercard, JCB, American Express, Diners Club です。いかなる場合でも登録完了後の返金はいたしかねますのでご注意ください。また団体登録や振り込み対応は行えませんのでご理解ください。

参加登録の手続き完了後，登録したメールアドレス宛に登録完了メールが自動送信されます。メールには参加登録マイページへのログイン方法とオンデマンド視聴の際に必要な Web 視聴用の ID が記載されておりますのでご確認ください。また，参加登録マイページでは申込済の教育研修講演や Web 視聴用の ID 等が表示されますので，併せてご確認ください。

【会員・研修会員・名誉会員のネームカード取得方法】

参加登録済の方は，会期中参加章発券窓口にて JOINTS アプリから QR コードを表示し，QR コードリーダーで読み取り参加章(ネームカード)を発行し，お受け取りください。JOINTS アプリ以外には，以下の方法で QR コードを表示することが可能です。

- ・会員ページより PDF データの QR を表示
- ・上記 PDF をスマホや PC に保存して表示
- ・上記 PDF を紙に印刷して表示

参加登録を行わずに来場した場合も，オンラインにて参加登録をお願いいたします。現金による当日参加受付は行いませんのでご注意ください。会場で下記の件でお困りの場合には JOINTS ヘルプデスク(神戸国際展示場1号館2F展示室A)へお問合せください。

- ・JOA ID(旧称：会員 ID)とパスワードが分からないため，参加登録ができない。
- ・JOINTS に初回ログインする方法が分からない。
- ・JOINTS アプリのダウンロード方法が分からない。

なお，申込済の教育研修講演は参加登録マイページにて確認することができます。教育研修講演の申込を行わずに来場した場合も，オンラインにて講演申込をお願いいたします。現金による当日の講演申込は行いませんのでご注意ください。

【オンデマンドのみで参加する会員】

詳細は，学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)でお知らせいたします。

【非会員・初期臨床研修医・メディカルスタッフ・学部学生の参加登録方法他】

上記カテゴリーの方は参加登録時に JOA ID (旧称：会員 ID)とパスワードは不要です。オンラインより参加登録手続きを行ってください。初期臨床研修医・メディカルスタッフ・学部学生の方は所属長の証明が必要です。証明書のフォーマットを本学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)からダウンロードして，参加登録システムからアップロードをお願いいたします。登録手続き完了後，参加登録マイページより QR コー

ドを発行・印刷し、会期中、参加章発券窓口にて参加章(ネームカード)を発券し、お受け取りください。

参加登録を行わずに来場した場合も、オンラインにて参加登録をお願いいたします。現金による当日参加受付は行いませんのでご注意ください。

全員懇親会のご案内

5月21日(木)18時40分から市民広場にて全員懇親会を行います。
皆様のご参加をお待ちしております。参加費は無料です。

2. クローク

神戸国際展示場 1号館 2F 展示室 A, 3号館, 神戸国際会議場 B1F, 神戸ポートピアホテル 本館 B1F, 南館 1F の特設クロークをご利用ください。

3. 託児所

学術総会会期中に託児所を設けますのでご利用ください(事前予約制)。詳細は学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)をご覧ください。予約なしでのご利用はできませんのでご了承ください。

4. 掲示板・伝言板・ドリンクサービス

参加登録受付付近に掲示板・伝言板を設けます。また、展示会場内にドリンクサービスコーナーを設けますのでご利用ください。

5. 食 事

ランチョンセミナーではお弁当を用意いたしますので、ご利用ください。なお、数には限りがありますので、あらかじめご了承ください。配布時間や配布場所など詳細は学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)をご覧ください。

6. 展示会

ポスター閲覧コーナーやおもてなしコーナーも予定していますので、ぜひご来場ください。

5月21日(木) 9:00～18:10	神戸国際展示場 1号館・2号館・3号館
5月22日(金) 9:00～18:00	
5月23日(土) 9:00～18:00	
5月24日(日) 9:00～12:00	

7. ハンズオンセミナー

会期中ハンズオンセミナーを予定しております。詳細は学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)をご覧ください。参加には事前参加登録が必要です。

8. 呼び出し

呼び出しは原則として行いません。

9. 駐車場

学術総会としての駐車場はありませんので、車での来場はご遠慮願います。公共交通機関をご

利用ください。

10. 禁煙のお願い

会場内は禁煙です。喫煙は施設としてあらかじめ用意された場所をお願いします。

11. 録音と写真撮影

会場内での録音および写真・ビデオ撮影は固くお断りいたします。ただし、日本整形外科学会・学術総会主催校・海外対応学会および共催企業が、会期中に会場内の写真・映像・音声を記録し、後日、教育や広報などのために、学会誌・ウェブ・冊子などの媒体上で使用することがあります。参加者各位におかれましては、あらかじめご承知おきください。

12. 携帯電話や時計のアラームなど

会場内での携帯電話の使用はご遠慮ください。あらかじめ電源を切るか、マナーモードに設定してご入場ください。

13. 会場内 Wi-Fi 環境について

会期中は、Wi-Fi (無線 LAN) がご利用になれます。

神戸ポートピアホテル SSID : PORTOPIA_HOTEL PASS : portopia

国際会議場・国際展示場 SSID : JOA2026 PASS : 2026kobe

II. 発表者の皆様へ

- 現地にて発表していただきます。後日開催の Web 会期中には、現地会期中に収録した一部の講演・シンポジウム等をオンデマンド形式で配信いたします。一般演題のオンデマンド配信はございません。

1. 学会発表における患者プライバシー保護について

学会発表では患者のプライバシーを重視し、平成 16 年 12 月 1 日付けの会告(日整会誌第 78 巻 12 号 996-7 頁, 2004 年)に準拠されるようお願いいたします。

2. 利益相反 (COI) の開示について

口頭発表およびポスター発表をされる方は、「日本整形外科学会における事業活動の利益相反 (COI) に関する指針」に基づき、利益相反の申告をお願いいたします。

筆頭演者は利益相反の有無にかかわらず、発表時に開示しなければなりません。口演発表スライドの最初に (COI が無い場合は「様式 2-A」、ある場合は「様式 2-B」)、またポスターの最後に該当する COI の有無、およびある場合はその状態を開示してください。学術総会ホームページの「利益相反について」の「スライド見本(様式 2-A, 2-B)」、「ポスター(様式 1-C)」を参照してください。

3. 使用言語

スライドの作成・発表は、日本語セッションでは日本語で、英語セッションでは英語でお願いします。

4. 口演時間

(1) 指定演題(一般演題以外)は個別に設定し、ご案内済みです。

(2) 一般口演の発表時間は 6 分、討論時間は 4 分です。時間を厳守してください。

5. 発表終了の合図

終了1分前に演台の黄ランプが、終了時に赤ランプが点灯します。

6. 次演者席

口演会場内左手前方に次演者席を設けます。前の演者が登壇後、次の演者は次演者席にて待機してください。

7. 発表方法

スライド発表はすべてコンピューター(PC)を使用いたします。詳細は、「Ⅲ. 口演発表機材とデータ受付について」をご参照ください。

Ⅲ. 口演発表機材とデータ受付について

1. 使用機材

PCは学術総会運営事務局で準備いたします。学術総会運営事務局で準備するPCはWindows PCです。OSはWindows 11でPowerPoint 2024をインストールしています。Macintoshでデータを作成されている場合は、ご自身のPCを使ってのご発表を推奨します。

2. 発表データ作成要領

- ・学術総会運営事務局では、Windows版PowerPoint 2024がインストールされたPCを用意いたします。この形式以外(その他のソフトウェア)のデータについては文字化けや表示されない等のトラブルが発生する可能性がありますのでPCをご持参ください。
- ・フォントはOS(Windows 10)に標準装備されたもののみをご使用ください。MS明朝、MSゴシック、メイリオ、Times New Roman、Arialを推奨いたします。
- ・作成した発表データは、USBメモリにてお持ちください。
- ・USBメモリは、必ず事前に作成したPC以外でも発表データが読み込めることを確認してください。メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新定義ファイルに更新されたアンチウイルスソフトでチェックしてください。
- ・会場で用意するプロジェクター画面の解像度はFull HD(1920×1080)です。16:9のデザインで作成願います。4:3で作成されたデータも表示可能です。
- ・動画データを使用される場合、Windows Media Player 11以降の初期状態に含まれるコーデックで再生できる動画ファイルをお持ちください。(MP4を推奨いたします)

Office2010以降は動画を埋め込む機能がありますが、ファイル単体も念のため、お持ちください。プレゼンテーションに他のデータ(静止画・動画・グラフなど)をリンクされている場合でも元のデータを保存していただき、必ず事前に他のパソコンでの動作確認をお願いいたします。

3. 発表データの受付

発表データはUSBメモリで準備して、「PCプレビューセンター」にご持参ください。他のメディアでの受け付けはできません。データの作成は上記「2. 発表データ作成要領」に従ってください。「PCプレビューセンター」には、朝10時まで開始されるセッションの演者は発表前日に、それ以外の時間帯の演者は発表前日からセッションの開始1時間前までの間にお越しください。「PCプレビューセンター」の受付時間・場所は次のとおりです。

受付時間		受付場所
第1日	5月21日(木) 7:00～18:30	神戸国際展示場 1号館 2F 展示室 A
第2日	5月22日(金) 7:00～18:00	神戸ポートピアホテル本館 B1F 和楽
第3日	5月23日(土) 7:00～18:30	神戸ポートピアホテル南館 1F 大輪田前ホワイエ
第4日	5月24日(日) 7:00～15:00	神戸国際会議場 3F ホワイエ

「PC プレビューセンター」ではオペレーターが待機しています。持参された USB メモリの発表データを事務局で用意する PC にコピーして、動作確認と試写を行ってください。試写および動作確認後、USB メモリはその場でご返却いたします。発表データは事務局で各発表会場へ転送いたします。お預かりした発表データは、学会終了後に学会事務局で責任を持って消去いたします。

口演の演者は、口演開始時刻 20 分前までに会場内次演者席へお越しください。発表時は演台にセットされているモニター、キーパッド、マウスを使用し演者ご自身で操作をしてください。発表時の操作方法についてご不明なことがある場合は、「PC プレビューセンター」にてご確認ください。発表者ツールは使用できません。

発表原稿が必要な方は、あらかじめプリントアウトをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。

4. 持参した PC で発表される場合

持ち込まれた PC は HDMI 端子で出力します。HDMI 出力端子が PC に装備されていない場合、必ず接続変換アダプタをご持参ください。DisplayPort や DVI では出力できません。また、事務局が準備したプロジェクターと接続できない場合に備え、PowerPoint で作成した発表用データを入れた USB メモリをバックアップとして必ずご持参ください。



HDMIケーブル



変換ケーブル

持参した PC で発表される場合、「PC プレビューセンター」での接続・動作確認と試写が必要です。午前中の最初のセッションの演者は発表前日に、それ以外の時間帯の演者は発表前日からセッション開始の 1 時間前までに「PC プレビューセンター」にお越しください。その上でセッション開始時刻の 30 分前までに会場内の次演者席付近の「PC デスク」にご自身で PC を持参し、PC 接続をお申し出ください。「PC デスク」ではオペレーターが待機しており、持参された PC の接続・動作確認を行います。発表時は演台にセットされているモニター、キーパッド、マウスを使用し、演者ご自身で操作してください。演台には設置することができないので、発表者ツールは使用できません。

- ・バッテリーフル充電であっても、AC 電源アダプタは持参を推奨します。
- ・発表中に映像が途切れることを防ぐため、スクリーンセーバーや省電力機能が作動しないように設定してください。
- ・口演終了後、PC はその場で返却いたします。

5. 当日の無断欠席について

第99回学術総会において発表時間前までに連絡なく欠演した場合、筆頭演者は次回(第100回学術総会)の一般演題に応募することはできませんのでご注意ください。

IV. 紙ポスター発表者の皆様へ

1. 使用言語

日本語セッションのポスターは日本語で、英語セッションのポスターは英語で作成してください。

2. 発表データ作成要領

ポスターのサイズは幅90cm×高さ160cmです。
演題番号、演題名、所属、演者名(幅90cm×高さ20cm)は事務局で準備します。

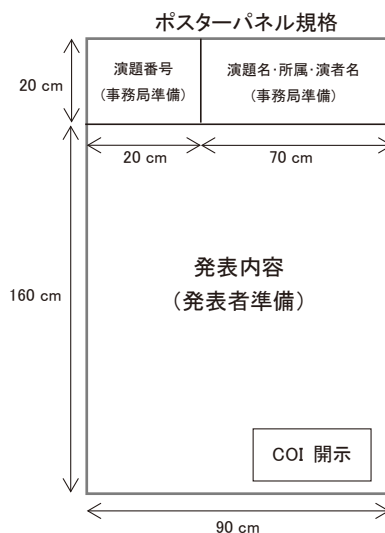
3. 発表方法

紙ポスターの掲示位置が不明の場合は、紙ポスター受付にてご確認ください。紙ポスター受付は1号館・2号館・3号館各施設に設置します。紙ポスター掲示用のピンは各ポスター下部に事務局で用意します。足りない場合は紙ポスター受付にお申し出ください。発表時には、ご自身のポスターの前で待機してください。座長の指示に従い、発表・質疑応答を行っていただきます。日本語セッションは日本語で、英語セッションは英語でご発表下さい。発表時間は3分、質疑応答時間は2分です。

4. 設置・撤去

紙ポスターの設置・撤去時間は以下のとおりです。会期中に紙ポスターの貼り替えはありません。

ポスター	設置時間	【第1日目】5月21日(木) 8時～9時15分
	撤去時間	【第4日目】5月24日(日)11時30分～12時30分



V. デジタルポスター発表者の皆様へ

1. 使用言語

日本語セッションのポスターは日本語で、英語セッションのポスターは英語で作成してください。

2. 発表データ作成要領

データ登録期限：令和8年5月15日(金) 正午

※データ登録方法は **Dashboard**(座長・演者マイページ)にて個別にご案内いたします。

会場にご用意するディスプレイモニターは55インチ程度、発表データはモニターへの1面映写で、解像度は1920×1080ドットです。

(2) 発表スライドデータの作成

ご登録できる ファイル形式	PowerPoint 形式(.pptx/.ppt)または PDF 形式 推奨バージョン：Windows 版 2019 /365 Mac 版 2019 /365 ※推奨以前のバージョンは、文字ずれなどが発生する恐れがあります ※ Microsoft PowerPoint 以外のソフト(Keynote など)をご利用の場合は、PowerPoint または PDF の形式に変換してからご登録ください ※ PowerPoint/PDF 形式に変換すると、文字化けなどが起きてしまう場合は、このシステムでの登録を行わず、技術サポートまで直接、データ転送サービスなどをご利用いただきデータをお送りください
作成サイズ	ワイド画面 (16:9) で作成してください スライドサイズは Microsoft PowerPoint 上部の「デザイン」ページ内、「ユーザー設定」から「スライドのサイズ」でご指定ください
フォント	フォントは OS 標準フォントを使用してください 【日本語】MS ゴシック, MSP ゴシック, MS 明朝, MSP 明朝, メイリオ, 游ゴシック, 游明朝 【英語】Times New Roman, Arial, Arial Black, Arial Narrow, Century, Century Gothic, Courier, Courier New, Georgia ※ OS 標準フォントのうち、Mac の Osaka フォントについては文字ずれ・文字化けする場合があります ※ 特殊なフォントの場合、標準フォントに置き換わってしまうため、文字ずれ・文字化けする場合があります
ファイルサイズ	最大 500 MB までで作成してください スライドの枚数の指定はございませんが発表時間内に収まるようお願いいたします
音声・動画	動画・音声は使用できません ご登録いただいたデータに含まれていた場合は、無効化されます
PowerPoint アニメーション 機能	アニメーションは使用できません ご登録いただいたデータに含まれていた場合は、無効化されます
ファイル名	ファイル名に指定はありません。 (登録していただいたデータのファイル名は、システム側で自動変換しております)
ウイルスチェック	必ず行ってください

3. 発表方法

(1) 発表データ

発表データを事前に WEB 上でご登録いただきますので、当日はセッション開始の 10 分前までに直接会内発表ブースまでお越しください。

なお、当日は修正ができませんので登録締切までに必ず登録してください。

※発表当日の不測の事態に備えて、バックアップデータをご持参ください。

発表時のイメージ



■ご発表時

PC を操作してご登録いただいたご発表データをディスプレイモニターに表示してご発表ください。

システムにはポインター、すべてのスライド表示、2枚のスライド比較、抄録・著者情報表示機能等があります。

ポインター表示

フリーハンドで曲線を描写することができます。



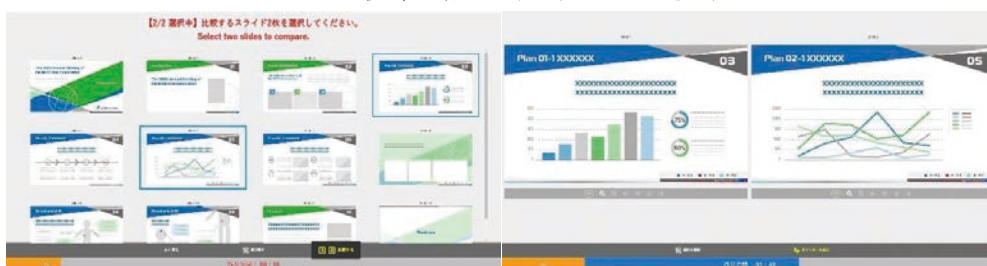
全スライド表示

特定のスライドをスキップ表示することができます。線は数秒で消えます。



スライド比較

スライド2枚を、左右並べて表示することができます。



ご発表時にはご自身に割り当てられた発表時間を厳守してください。

【発表時間】発表3分、質疑2分(計5分)

座長の指示に従い、発表・質疑応答を行っていただきます。

日本語セッションは日本語で、英語セッションは英語でご発表ください。

4. 発表ブースの対応

発表ブースには、PC オペレーターは配属されません。発表当日の不測の事態に備えて、バックアップデータをご持参ください。

発表データは事前に登録されたものに限りませんので、当日発表者持参のノートパソコンなどは利用できません。

5. ポスターデータの閲覧

会期中、国際会議場 5F のデジタルポスターブース、展示会場内に設置したデジタルポスター閲覧用 PC、またはご自身のスマートホンやタブレットから閲覧いただけます。詳細は会場内の案内、または学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)をご覧ください。

6. 当日の無断欠席について

第99回学術総会において発表時間前までに連絡なく欠演した場合、筆頭演者は次回(第100回学術総会)の一般演題に応募することはできませんのでご注意ください。

VI. 座長の皆様へ

●原則、現地会場で通常どおり現地で座長をしていただきます。

1. 口演発表の座長

担当セッション開始時刻の15分前までに、会場内の次座長席にご着席ください。進行は時間厳守をお願いいたします。一般口演以外の座長で、座長スライドを使用される方は、セッション開始1時間前までの間に「PCプレビューセンター」で手続きをお済ませください。一般口演の座長は座長スライドの使用はできませんのでご了承ください。詳細は「Ⅲ. 口演発表機材とデータ受付について」をご参照ください。

2. 紙ポスター発表の座長

担当セッションのポスター発表時間の10分前までに、「紙ポスター受付」(神戸国際展示場1号館, 2号館, 3号館の各館1F)にお越しください。各演者の発表時間は3分間、討論時間は2分間です。進行は時間厳守をお願いいたします。

3. デジタルポスター発表の座長

担当セッションのポスター発表時間の10分前までに、「デジタルポスター受付」(神戸国際会議場5F)にお越しください。各演者の発表時間は3分間、討論時間は2分間です。進行は時間厳守をお願いいたします。

VII. 質疑応答にて発言される皆様へ

質疑応答で発言される方は、口演ではあらかじめ会場内マイクの前に並んでお待ちください。ポスター発表で発言される方は挙手でお知らせください。質疑応答は座長の指示に従い、所属・氏名を述べたあと簡潔に発言してください。質疑応答での発言の際、スライドなどは使用できません。

VIII. 日整会教育研修単位を取得される皆様へ

1. 教育研修単位取得の手続き

(1) 単位取得には1単位につき1,000円(消費税10%を含む)の手数料がかかります。

(2) 学術総会での取得可能単位数の上限は、1日7単位、会期中合計28単位です

オンデマンド配信中の取得可能単位数の上限は16単位です。

現地+オンデマンド(ハイブリッド)の場合、現地+オンデマンドを合計して最大28単位です。(そのうちオンデマンドは最大16単位)

※例：現地で10単位取得済の場合、オンデマンドでは16単位まで取得可能

現地で12単位取得済の場合、オンデマンドでは16単位まで取得可能

現地で14単位取得済の場合、オンデマンドでは14単位まで取得可能

なお、単位数の上限に、第 99 回学術総会参加単位(3 単位)、研修指導者講習会、骨・軟部腫瘍特別研修会の単位は含まれません。

学術総会参加方法	取得可能単位数
現地参加のみ	28 単位
オンデマンド配信期間中の参加のみ	16 単位
ハイブリッド参加 (現地参加+オンデマンド配信期間中の参加)	28 単位 オンデマンド配信期間中の取得単位 (最大 16 単位)を含む

(3) 第 99 回日本整形外科学会学術総会において教育研修単位を取得できる講演は、基調講演、特別講演、理事会提案講演、教育研修講演、招待講演、JOA-AAOS combined program: Instructional lecture, ランチョンセミナー、アフタヌーンセミナーです。また、指定されたシンポジウムも単位取得が可能です。

(4) 単位を取得するには、受講申込が必要です。受講申込には以下の 3 つの方法があります。

①事前申込

学術総会ホームページから早期参加登録を行った方がのみが、事前受講申込できます。全体の 90%程度を事前申込に割り当てます。ホームページから事前申込ください。

事前申込手続期間：令和 8 年 3 月 4 日(水)正午～ 5 月 19 日(火)16 時

②会期中申込

学術総会ホームページから参加登録を行った方がのみが、受講申込できます。会場には現金による受付窓口はなくすべてオンライン登録・オンライン決済です。(受講申込は講演開始時間の 10 分前まで)。全体の 10%程度と事前申込残余分を会期中申込に割り当てます。なお、5 月 23 日(土)、24 日(日)の講演については、全体の 5%程度、当日登録枠を設けます。

③会期後(オンデマンド期間中)申し込み

詳細は学術総会ホームページ(<https://www.congre.co.jp/joa2026/>)でお知らせいたします。

下記(5)(6)は現地で単位取得を行う場合のご案内です。

(5) 学術総会終了から一定期間後、演題名を含む受講記録が日整会会員ページ(JOINTS)の「単位振替 未専門医」のページに表示されます。カリキュラム制研修の専攻医は、専門医申請の際にこのページをプリントアウトして他の必要書類と一緒に提出ください。

(6) 講演会場での手続

講演開始前 10 分から開始後 10 分までに、参加章に表示されている QR コードを講演会場入口の読取機にかざして出席登録を行ってください。10 分を過ぎた場合、入場手続きが完了していない場合、途中退場された場合には単位取得はできませんのでご注意ください。受講手続きを行った講演と実際に受講する講演が異なった場合は、入場時に QR コードを読取機にかざしますと警告音となり、研修単位取得ができませんのでご注意ください。なお、シンポジウムで単位を取得する場合は、入場時だけでなく退場時にも QR コードを読取機にかざす必要があります。

(7) 研修単位受講履歴について

学術総会終了から一定期間後、単位が反映されます。単位の反映時期については、第 99 回日本整形外科学会学術総会ホームページにてお知らせいたします。日整会会員ペー

ジ(JOINTS)の「資格・単位>専門医>単位振替」で単位取得状況をお確かめください。取得した単位で、複数の必須分野等が認定されている場合、自動的に小さい方の分類番号として登録されます。N1, N3, Rが認定されている場合、自動的にN1になります。N3やRの単位として登録したい場合は、「単位振替」から変更してください。

なお、受講された単位が取得可能単位数を超過した場合や同一時間帯での複数受講記録がある場合は過誤データとして扱われます。「単位振替」で超過分などの削除を行ってください。単位反映後3カ月以内にご自身で訂正されなかった場合には、一定のルールに従って機械的に削除されますのでご注意ください。

【不正受講の禁止等】

学術総会等における講演その他の単位を申請する教育研修の受講は、参加者が高度な学識と技能を習得するために必要なものです。さらに、教育研修単位として申請をされている場合は、わが国における専門医制度の運営の基盤となるものです。オンデマンドプログラムを受講する際に閲覧する動画を「早送り」をするもしくは、同じ時間帯に複数の端末等で再生した場合は、記録している「ログ」をもとに、不正受講が行われたと判断します。不正受講は、学術総会等の意義を毀損するとともに、医師としての資質に重大な疑いを生じさせ、専門医制度の円滑な運営に支障を生じさせる行為です。不正受講をした会員に対しては、単位の不認定は当然として、厳正に対処します。絶対にお止めください。なお、一旦教育研修単位の申請をされた以上は、支払われた受講手続費用は返金しません。

【不正受講とみなされること】

1. 講演の初回視聴をスキップ(早送り)してeテストに合格して単位申請すること。
2. 複数のPC・タブレット等で同時に視聴を行いeテストに合格して単位申請すること。
3. 複数のブラウザやタブを用いて同時に視聴を行いeテストに合格して単位申請すること。
4. 視聴前にeテストの設問画面にアクセスして解答すること。
5. 複数講演を同時に受講開始しておき、追って順番に視聴すること。
6. 視聴後、時間が経過してからまとめて解答すること。
7. 他人に視聴あるいはeテストを委託して単位申請すること。
8. その他、本学会、教育研修委員会が不正と判断すること。

【不正行為の予防のために】

・eテスト合格後の単位申請について

講演をすべて視聴した後に、すみやかに設問に解答して、正解(共通講習では80%以上)の場合に限り、申請後に単位が付与されます。

・eテスト解答開始までの時間制限

講演の視聴終了後、10分以内に設問の解答を開始した場合に単位申請を認めます。視聴終了後10分を超えた時間が経過してeテストの解答を開始した場合の単位申請は認めません。

・eテスト解答時間の時間制限

解答時間には制限を設けます(領域講習(設問1題、5択形式)は30分以内、共通講習(設問5題、5択形式)は60分以内)。視聴後、「視聴終了」ボタンをクリックしたら、すぐに回答を

始めてください。一度クリックされますと取消しができませんので、制限時間内に必ず回答してください。超過した場合、理由の如何を問わず単位取得は認められません。

- ・初回の早送りや視聴時間の短縮をした聴講による単位申請を認めません。
- ・複数講演の同時視聴あるいはローディングした聴講による単位申請は認めません。
- ・不正受講と認定された場合でも返金はいたしません。
- ・オンデマンド配信の一時停止機能の時間制限

聴講時に一時停止を認めます。ただし、一時停止の上限は累計(停止回数は問わない)で24時間とし、それを超えた場合には再受講をしなければなりません。

【特例措置】

子育て中の医師については、特例措置を設けます。申請は、日整会会員ページ(JOINTS)の「eラーニング> eラーニング> 特例措置申請」にお進みいただき、【新規登録】を選択後、申請事由等の入力、母子保健手帳の表紙と1ページ目の写しあるいは障害者手帳の写しを添付し、申請してください。審査後認可された医師に限り、解答時間開始および解答時間の時間制限、一時停止時間の上限を設けません。

特例措置期間は1年間としますが、再申請により延長を可能とします。なお、母子手帳の「子の氏名」部分は伏せてください。また、健常児の特例措置の適用は、未就学児のみとします。

2. 学術総会参加単位の取得(整形外科専門医の先生方へ)

学術総会参加単位は、参加登録を行うと単位反映の際に自動で登録されます。日本専門医機構認定整形外科専門医の学会参加単位は5年間で6単位まで認められます。日整会会員ページ(JOINTS)には、オンデマンド期間終了後に反映いたします。

	学術総会 参加単位
専門医認定資格を得るための研修期間の会員	—
日本専門医機構認定整形外科専門医	3単位

Ⅸ. 他学会の単位取得について

いくつかの講演が日本手外科学会、日本リハビリテーション医学会の単位として認定されています(詳細は41-57頁をご参照ください)。受講する前に必ずオンラインにて各学会の「単位受講申込」を行ってください。

本学術総会に参加することで日本リハビリテーション医学会、日本リウマチ学会、日本骨粗鬆症学会の単位が認定されます。単位取得の手続きについては、各学会事務局へお問い合わせください。なお、会期中に産業医の単位を取得できる講演はありません。

X. 第72回 日本整形外科学会骨・軟部腫瘍特別研修会の開催について

本学術総会において、骨・軟部腫瘍取扱いについての特別研修会を以下の要領で開催いたします。この特別研修会の受講により専門医試験の受験申請に必要な腫瘍の単位1単位が取得できません。

- 内 容 : 「軟部腫瘍の診断と治療」
司会 堀内圭輔(防衛医科大学校整形外科学講座)
講師 中田英二(岡山大学学術研究院医歯薬学域生体機能再生・再建学講座(整形外科))
- 日 時 : 令和8年5月24日(日) 13:25～14:25
- 会 場 : 第10会場(神戸国際会議場 メインホール)
- 対 象 : 未専門医(今後、専門医試験を受験予定の方)
- 定 員 : 692名
- 受講方法 : 日整会会員ページ(JOINTS)から、2026年3月の会告をご確認ください。本研修会の受講には、本学術総会の参加登録が必要です。
オンデマンド配信期間中の受講も可能です。

XI. 第41回 日本整形外科学会研修指導者講習会の開催について

- 内 容 : 1. 「学生が整形外科を選ぶ瞬間 ―卒前・卒後をつなぐ指導医の教育技法―」
講師 鳥居暁子(慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター・整形外科)
「医学教育学と医学教育研究」
講師 錦織 宏(名古屋大学総合医学教育センター)
2. 「プロフェッショナルリズムの教育」
講師 北村 聖(地域医療振興協会)
- 日 時 : 令和8年6月15日(月) 正午～7月8日(水) 16時
- 会 場 : オンデマンド配信のみ(現地では開催いたしません)
- 対 象 : 日整会研修施設の指導責任者またはこれに準ずる方
- 定 員 : なし
- 受講方法 : 本講習会の受講には、本学術総会の参加登録が必要です。会期終了後、オンデマンド期間中に受講をお願いいたします。

XII. 第10回 日本整形外科学会小児運動器疾患指導管理医師セミナーの開催について

- 日 時 : 令和8年5月24日(日) 14:40～15:40
- 会 場 : 第10会場(神戸国際会議場 メインホール)
- 内 容 : 「こどもの運動器診療の実践と注意点」
座長 高橋 淳(信州大学医学部運動機能学教室)
講師 岡 佳伸(日本バプテスト病院整形外科)
- 対 象 : 医師
- 受講料 : 公益社団法人日本整形外科学会会員1,000円(消費税10%を含む)
会員は本学術総会の参加登録が必要です。受講する前に必ずオンラインにて「受講申込受付」を行ってください。

その他 : 本セミナーを受講すると小児運動器疾患指導管理料の算定が可能となります。
オンデマンド配信期間中の受講も可能です。

XIII. Award 受賞者などのご紹介

1. 日本整形外科学会奨励賞受賞者(令和7年度)

後藤篤史(岐阜大学)

「PI3K/Akt シグナルは Scx 陽性腱細胞と Tppp3陽性腱鞘滑膜細胞を制御して新生児の腱再生を促す」(S648 頁)

長谷川延彦(順天堂大学)

「DNA 脱メチル化薬は滑膜肉腫前臨床モデルに対して抗腫瘍効果を示す」(S648 頁)

玉井孝司(大阪公立大学)

「片開き式頸椎椎弓形成の固定椎弓数削減法は全椎弓固定と比して非劣性である —多施設ランダム化比較試験術後2年時結果—」(S649 頁)

山田勝久(北海道大学)

「腰椎椎間板ヘルニア患者に対する高純度硬化性ゲルを用いた探索的臨床試験」(S649 頁)

令和7年度日整会奨励賞受賞者については、日本整形外科学会奨励賞受賞者講演(5月23日(土)8:00~9:00 第6会場)でご発表いただきます(所属は研究時)。

2. HKOA(Hong Kong Orthopaedic Association) Ambassador

Gloria Yan Ting Lam (Dept. of Orthop. and Traumatology, Alice Ho Miu Ling Nethersole Hosp., Tai Po, NT, Hong Kong / Dept. of Orthop. and Traumatology, The Chinese Univ. of Hong Kong, NT, Hong Kong)

Factors affecting cementless femoral stem alignment in DAA hip arthroplasties: A review of 100 cases (S705 頁)

日整会と香港整形外科学会が毎年相互に派遣しています。HKOA から演者をお迎えし一般演題口演(英語)64(5月23日(土)10:30~11:30 第9会場)でご講演いただきます。

3. JOA Congress 2026 Travel Award

Prihantini Prihantini (AI-BioMedicine Research Group, IMCDS-BioMed Research Foundation, Jakarta, Indonesia)

Elfiany Syafruddin (Computational Science Research Lab., BLK Muhammadiyah Univ., Bulukumba, Indonesia)

Cholavech Chavasiri (Dept. of Orthop. Surg., Faculty of Medicine, Siriraj Hosp., Mahidol Univ., Bangkok, Thailand)

Shahzaib Riaz Baloch (Dept. of Orthop. & Spine Surg., Dr. Zia Hosp., Karachi, Pakistan)

Sitanshu Barik (Dept. of Orthop., AIIMS, Nagpur, India)

Nakarin Nimpisut (Dept. of Orthop., Institute of Medicine, Suranaree Univ. of Technology, Nakhon Ratchasima, Thailand)

Scott M. Bolam (Dept. of Orthop. Surg., North Shore Hosp., Auckland, New Zealand)

Ruikang Guo (Dept. of Orthop. Surg., North Shore Hosp., Auckland, New Zealand)

Chun Cheng Lin (Division of Trauma, Dept. of Orthop., Taipei Veterans General Hosp.,

Taipei, Taiwan)
Pankaj Kumar Yadav (Dept. of Pharmacy, RIPANS, Aizawl, India)

XIV. 優秀演題賞のお知らせ

一般演題口演の中から、優秀口演賞：5 演題を決定しました。受賞者は一般演題口演 1 優秀口演賞セッション(5月21日(木)10:30～11:20 第2会場)でご発表いただきます。セッション中に審査を行い、最優秀口演賞を決定し、5月21日(木)全員懇親会にて発表し表彰します。

◆優秀口演賞：受賞演題◆

大池 潤(1-2-2) 太田 克法(1-2-1) 多治見昂洋(1-2-4)
種子島 岳(1-2-3) 野本 一希(1-2-5) (五十音順, 敬称略)

また、優秀ポスター賞 候補演題を決定しました。会場内に紙のポスターを掲示し主催校が審査を行い最優秀 1 演題, 優秀 2 演題を決定します。結果は閉会式で発表し表彰します。候補者は閉会式にご出席いただきますようお願いいたします。

◆優秀ポスター賞：候補演題◆

市川 二郎(3-Po-7) 佐々部 敦(3-Po-135) 中村 俊介(1-Po-82)
成尾 宗浩(3-Po-43) 西村 俊司(3-Po-1) 三本佳一郎(4-Po-38)
山崎 修平(1-Po-37) (五十音順, 敬称略)

第99回 日本整形外科学会学術総会 講演一覧

会長講演

タイトル	講師	抄録	会場	日時	
百年をつなぐ —A bridge between past, present, and future—	田中 栄	S1	1	21日	14:05-14:45

基調講演

タイトル	講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
生命誕生からChatGPT —38億年目の創発—	西川伸一	S583	1	23日 13:25-14:25	N	1	107	

座談会

タイトル	講師	抄録	会場	日時	
対談 (女性アスリートとロコモ)	八木沼純子, 田中 栄, 中島康晴, 能瀬さやか	—	1	21日	17:30-18:30

特別講演

タイトル	講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
1 科学技術力は国家生存の条件である	野依良治	S582	1	23日	9:35-10:35	N	1	091
2 医療変革期の臨床医学研究	永井良三				10:45-11:45	N	14-3	092
3 熟達論	為末 大	S583			14:40-15:40	N	14-5	109

SICOT Special lecture

タイトル	講師	抄録	会場	日時	
How is technology helping us in driving hip preservation surgery forward?	Vikas Khanduja	—	1	21日	10:30-11:00

理事会提案講演

タイトル	講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020
1 あなたも落ちる倫理の穴 —Cadaver surgical training参加者心得—	鈴木崇根	S597	2	23日 13:25-14:25	N	14-5	108
持続可能なカダバーラボ	七戸俊明	S597					
2 専門診療科と医学教育 —わが国の医学教育の方向性と整形外科の医師育成—	小西靖彦	S614	3	15:55-16:55	N	14-5	118

教育研修講演

タイトル		講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
1	百年の背骨を支える ―骨粗鬆症性椎体骨折診療の現在地と未来地図―	星野雅俊	S4	2	8:00-9:00	N, SS	4, 7	002	
2	グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症 ―脱ステロイドの時代へ―	田中良哉			9:15-10:15	N, R	4, 6	011	
3	田川先生のRAOからSPOへ ―寛骨臼骨切り術の革新と進化の軌跡―	西脇 徹	S14	3	8:00-9:00	N	3, 11	003	
4	整形外科医とともに考えたい車椅子の話 ―車椅子の100年と現在の課題―	桂 律也	S15		9:15-10:15	N	14-5	010	リ学
5	アスリートに対するスポーツ復帰を目指した膝周囲骨切り術	中山 寛	S25	4	8:00-9:00	N, S	2, 12	004	
6	運動器超音波を用いた膝スポーツ疾患の診断と治療戦略	中瀬順介			9:15-10:15	N,S	2, 12	009	
7	母指CM関節症治療の現在と未来	三浦俊樹	S36	5	8:00-9:00	N	10	005	手
8	難治性良性・中間型腫瘍患者の活動を育むための学際的診療・研究活動	西田佳弘			9:15-10:15	N	1, 5	008	
9	下肢機能軸からみた後足部障害の治療	原口直樹	S46	6	8:00-9:00	N	12	006	
10	脆弱性骨盤骨折の診断と治療	塩田直史			9:15-10:15	N	2, 4	007	
11	脊髄手術(腫瘍・血管)における基本原則と技術革新	高見俊宏	S102	10	10:30-11:30	N, SS	1, 7	014	
12	医師に必要なChatGPTの使い方ぜんぶ教えちゃいます	大塚篤司	S104		15:00-16:00	N	14-5	030	
13	凍結肩と腱板断裂, 診断は紛らわしく, 治療は両極端な2大肩疾患の診断と治療	今井晋二			16:15-17:15	N	2, 9	034	
14	運動器疾患の疫学 最新アップデート ―地域住民コホート研究ROADより―	吉村典子	S105		17:30-18:30	N	1	040	
15	多様性と倫理性 ―異分野融合マネジメント―	鄭 雄一	S131	12	10:30-11:30	N	14-3	015	
16	人工肘関節のデザインから考えた長期臨床成績を鑑みる	稲垣克記	S132		15:00-16:00	N	1, 9	031	
17	医療安全のためのコミュニケーションと組織作り	中島 勸			16:15-17:15	N	14-1	033	
18	変形性膝関節症に対するインターベンショナル治療 ―疼痛治療の新しい展開―	池内昌彦	S133		17:30-18:30	N	1, 12	039	
19	OPLL研究の軌跡と展望 ―骨化の謎に挑む過去・現在・未来―	高畑雅彦	S411	1	15:35-16:35	N, SS	1, 7	071	
20	肘関節周囲骨折の診断と治療 ―小児から成人まで―	今谷潤也	S458	5	15:35-16:35	N	3, 9	072	
21	手指屈筋腱損傷に対する理想的な治療を目指すための基本事項	森谷浩治	S475	6	15:35-16:35	N	2, 10	073	手
22	骨粗鬆症の長期治療戦略	宮本健史	S489	7	15:35-16:35	N	4	066	
23	慢性足関節不安定症の病態と治療	寺本篤史	S504	8	15:35-16:35	N	12	067	

タイトル		講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位	
24	多発外傷患者における骨折治療の最前線	峰原宏昌	S529	10	22日	15:35-16:35	N	2, 11	068	
25	脊椎腫瘍の診断から治療戦略の選択まで	杉田守礼	S544	11		15:35-16:35	N, SS	5, 7	069	
26	こどもの骨関節疾患に対する内視鏡手術 —骨成長の回復と関節機能改善のために—	西須 孝	S559	12		15:35-16:35	N	2, 3	070	
27	遺伝統計学の世界へようこそ	岡田随象	S613	3	13:25-14:25	N	1	105		
28	脊椎外科におけるロボット支援手術の現状と将来 展望	齋藤貴徳			14:40-15:40	N, SS	1, 7	115		
29	デジタルによる変革で医療の未来を織る	美代賢吾	S614		17:10-18:10	N	14-5	121		
30	次世代の医療技術開発におけるレギュラトリー サイエンスの重要性	佐久間一郎	S615	4	8:00-9:00	N	14-5	080		
31	2040年を見据えた医療政策 —希望ある医療の 未来のために考えたい政策課題と展望—	迫井正深			9:15-10:15	N	14-5	089		
32	偽関節の治療戦略	松村福広	S631		5	8:00-9:00	N	2	079	
33	インプラント周囲骨折を極める	馬場智規		9:15-10:15		N	2, 11	088		
34	日本における小児療育・小児リハビリテーションの 歴史と今後 —肢体不自由を中心に—	小崎慶介	S701	8		17:30-18:30	N, Re	3, 13	124	リ学
35	股関節鏡視下手術 —適応, 手術手技, そして ピットフォール—	福島健介	S716	10	23日	8:00-9:00	N	2, 11	081	
36	Difficult primary THA —過去から得られた現在の strategy, そして未来へ—	加畑多文				9:15-10:15	N	11	087	
37	手術部位感染に対するアプローチ —バンドルケ アによる予防とエビデンスに基づいた治療戦略—	崔 賢民	S724			14:40-15:40	N	14-2	116	
38	長寿命大国における骨粗鬆症と関節症の病態連 関と人工関節生存率の向上を再考する —感染 対策と骨粗鬆症(骨質)対策の重要性—	斎藤 充	S728	17:30-18:30	N	4, 6	123			
39	小児脊柱変形の診断と治療	柳田晴久	S728	11	23日	8:00-9:00	N, SS	3, 7	082	
40	見逃されてきた胸郭出口症候群 —一般・スポー ツ診療における難治性上肢症状をどう診るか? 1000例の手術経験から学んだこと—	古島弘三	S743			17:30-18:30	N	2, 9	125	
41	研究倫理とethical, legal and social implication (科 学技術の倫理的法的社会的側面), そして responsible research and innovation (責任ある研 究とイノベーション)	藤垣裕子	S747	12	23日	9:15-10:15	N	14-3	090	
42	感染症診療における抗菌薬選択の落とし穴と適 正使用戦略	谷口俊文	S759			17:30-18:30	N	14-2	126	
43	脊髄再生とリハビリテーション治療	緒方 徹	S1031	1	24日	8:00-9:00	N, Re	7, 13	129	リ学
44	膝関節温存を目指す多面的アプローチ	石川正和	S1035			13:25-14:25	N	12	154	
45	満足度向上を目指す人工膝関節置換術 —テクノロジーが導く未来—	乾 洋				14:45-15:45	N	12	162	

タイトル		講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
46	骨の健全性と安全性を支える機能的適応のシステムバイオメカニクス	安達泰治	S1046	2	13:25-14:25	N	1, 4	153	
47	医療の現場では何が求められているのか —弁護士対応事例から見えてくるもの—	水沼太郎				14:40-15:40	N	14-1	161
48	DDHの歴史から学ぶ予防と治療	青木 清	S1057	3	13:25-14:25	N	3, 11	155	
49	特発性大腿骨頭壊死症に対する治療戦略 —現状と展望—	本村悟朗				14:40-15:40	N	11	160
50	転移性骨腫瘍症例の集学的マネジメント	片桐浩久	S1058	3	8:00-9:00	N	5	130	
51	バラスポーツから学ぶ運動器の可能性 —障害を超える身体と整形外科の新たな役割—	塩田有規	S1065			13:25-14:25	N	2, 13	156
52	骨系統疾患のX線診断	西村 玄	S1066	3	14:40-15:40	N	3	159	
53	アスリートにおける半月板損傷の治療	松下雄彦				8:00-9:00	N, S	2, 12	131
54	ACL再建術における基本戦略	史野根生	S1067	5	24日	9:15-10:15	N, S	2, 12	137
		解剖学的ACL再建術が行われないとどうなるか? —リカバリーショットとしてのACL再再建術—							
55	足部・足関節のスポーツ傷害のup to date	吉村一朗	S1068	6	10:30-11:30	N, S	2, 12	139	
56	人工肩関節置換術の理解に必要な機能解剖とバイオメカニクス	池上博泰	S1076			8:00-9:00	N	2, 9	132
57	続発性骨粗鬆症と骨粗鬆症類縁疾患の鑑別診断	伊東伸朗	S1077	6	9:15-10:15	N	4	135	
58	骨微細構造から紐解く —骨脆弱化のメカニズムと骨粗鬆症の治療戦略—	千葉 恒	S1077			10:30-11:30	N	1, 4	140
59	関節リウマチの歴史とその治療の変遷	西野仁樹	S1084	7	8:00-9:00	N, R	1, 6	133	
60	整形外科医による関節リウマチ診療の現状とこれから果たすべき役割	門野夕峰				9:15-10:15	N, R	6	134
61	高潤滑型人工股関節ライナーの開発・社会実装とAI骨粗鬆症診断補助システム —整形外科における新技術開発の軌跡—	茂呂 徹	S1089	7	13:25-14:25	N	4, 11	157	
62	安全で納得できる医療のために —医師の役割—	山本知孝	S1155			12	10:30-11:30	N	14-1

招待講演

タイトル		講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位					
1	Orthopaedic surgery of hemophilic arthropathy	Luigi Piero Solimeno	S73	7	21日	17:30-18:30	N, R	4, 6	037					
	Joint health in haemophilia: The importance (and challenge) of early detection to prevent end-stage arthropathy	Lize F. Van Vulpen												
2	Precision sarcoma care	Jay Wunder	S84	8		21日	15:00-16:00	N	5	028				
	Prognostic stratification and its clinical implementation in bone and soft-tissue sarcomas: Toward personalized sarcoma care	Koichi Ogura												
3	Pathophysiology and treatment of bone and mineral disorders of fibroblast growth factor 23	Michael T. Collins	S88	8			21日	17:30-18:30	N, R	1, 4	038			
	Autoimmune osteomalacia	Nobuaki Ito												
4	Novel PTH1R receptor signaling pathways in bone lineage cells reveal a pleiotropic cross-talk action of PTH ※2名演者から1名へ変更	Roland E. Baron	S89	8				21日	8:00-9:00	N, R	1, 4	001		
5	Intraoperative neuromonitoring (IONM) for adult spinal deformity surgery	Stephen J. Lewis	S90	8					21日	9:15-10:15	N, SS	7, 13	012	
	Looking back on 10 years of adult spinal deformity surgery: How to prevent complication	Yukihiro Matsuyama												
6	Advances in shoulder replacement: Achieving optimal motion and longevity with anatomic shoulder replacement	Anthony A. Romeo	S91	8						21日	10:30-11:30	N, Re	9, 13	013
	The pathology of rotator cuff tear and its treatment strategy	Noboru Matsumura												
7	Current concepts in management of meniscus injuries in ACL reconstruction	Yee Han Dave Lee	S93	9	21日						15:00-16:00	N, S	2, 12	029
	Current concepts in management of lateral discoid meniscus	Yusuke Hashimoto												
8	Lisfranc injuries: When to fix, when to fuse, and when to leave alone	Christopher W. DiGiovanni	S94	9		21日					16:15-17:15	N, S	2, 12	035
	Anatomical ligament reconstruction for lisfranc joint injuries: Clinical outcomes and future perspectives	Hiroyuki Mitsui												
9	Evolving concepts in the management of primary elbow osteoarthritis: From classification to arthroscopic precision	In-Ho Jeon	S95	9			21日				17:30-18:30	N	9	036
	Pushing the boundaries of superior capsule reconstruction for rotator cuff tears	Teruhisa Mihata												
10	Missed diagnoses in the cervical spine	K. Daniel Riew	S408	1				22日	11:05-12:05		N, SS	7	043	
	Brain involvement in spinal disorders	Yasushi Oshima												

タイトル		講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
11	Re-thinking prophylaxis: Intraosseous antibiotics and analgesia as dual-action regional therapy in total knee arthroplasty	Simon W. Young	S421	2	22日	11:05-12:05	N	6, 12	044
	Personalized alignment strategy in TKA: Ground kinematically aligned TKA	Tomoyuki Matsumoto							
12	Diagnosis and therapy of the periprosthetic joint infection: The one stage exchange	Thorsten Gehrke	S443	4		11:05-12:05	N	6	045
	Updates in diagnosing periprosthetic joint infection	Naomi Kobayashi							
13	Elbow instability: A bridge between present, past and future	Shawn W. O'Driscoll	S453	5		11:05-12:05	N	2, 9	046
	Surgical treatment for missed Monteggia fracture dislocation: Limitation of ulnar osteotomy	Emiko Horii							
14	Total ankle replacement: Past, present and future	James A. Nunley	S499	8		11:05-12:05	N	12	047
	Evolution of total ankle arthroplasty in Japan: Toward the establishment of combined TAA	Akira Taniguchi							
15	National guidelines improve outcomes for patients with open fractures	Jagdeep Nanchahal	S525	10		11:05-12:05	N	2	050
	Current status of the management of acute Gustilo Type 3B open tibial fractures in Japan	Kentaro Futamura							
16	Scientific evolution and clinical update on minimally invasive management of periacetabular metastases and pathological fractures	Francis Lee	S539	11	11:05-12:05	N	5	048	
	Advances in the treatment of bone and spinal metastases: Prognosis, genomic profiling, and surgical perspectives	Yoshihiro Matsumoto							
17	Challenges in the limb surgery for skeletal dysplasia	Tae-Joon Cho	S554	12	11:05-12:05	N	3	049	
	Genetic research of skeletal dysplasia and its application to clinical practice in Japan	Shiro Ikegawa							
18	Prevention of rheumatoid arthritis and new methods to treat resistant disease	Georg Schett	S666	6	23日	17:30-18:30	N, R	1, 6	128
	Precision medicine of rheumatoid arthritis	Keishi Fujio							
19	The latest advances in female athlete injury prevention, performance optimization, and return to sport	Emily A. Kraus	S688	8		8:00-9:00	N, S	2, 13	084
	Management of low back pain in athletes: From adolescent to professional players	Kinshi Kato							
20	Value in orthopaedic surgery: Decreasing cost does not mean decreasing care	Leo T. Kroonen	S689			9:15-10:15	N	14-5	085
	The impact of the JOA-AOA exchange traveling fellowship on the outlook of one Japanese young orthopaedic surgeon	Sachiyuki Tsukada							

タイトル		講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
21	Can we treat osteoporosis, obesity and neurodegeneration with a single FSH-blocking drug?	Mone Zaidi	S697	8	14:40-15:40	N	1, 4	112	
	Bridging the next century: Prevention and treatment of osteoporosis in Japan	Taro Mawatari							
22	Purified exosome product for rotator cuff repair and regeneration	Chunfeng Zhao	S702		8:00-9:00	N	1	083	
	Cellular senescence: A key regulator of inflammation and tissue regeneration	Takako Chikenji							
23	What happened at the International Consensus Meeting 2025: Synopsis of accomplishments	Javad Parvizi	S703		23日 9:15-10:15	N	14-2	086	
	What we learned from the International Consensus Meeting 2025: Knowledge and the valuable asset of experience	Hyonmin Choe							
24	Form follows function	Ho-Joong Kim	S711	9	14:40-15:40	N, SS	7	111	
	History and current status of adult spinal deformity surgery	Gen Inoue							
25	Cervical deformity: Classification and treatment	Han Jo Kim	S715		17:30-18:30	N, SS	7	127	
	The challenge in treating complex spine deformity in Japan	Hiroyuki Nakarai							
26	Geriatric fracture care: Challenges, strategies, and Taiwanese insights	Po-Ting Wu	S1112		24日 9:15-10:15	N	4, 12	138	
	Development of robotic technology in total knee arthroplasty and its role in a super-aging society	Yasushi Oshima							

JOA/AAOS combined program: Instructional lecture

タイトル		講師	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
1	Leveraging advances in implant design and instrumentation to address complex primary and revision total hip arthroplasty: Case based discussion	Erik Hansen	S598	2	23日 14:40-15:40	N	11	110	リ学
	Implant design in total hip arthroplasty	Jeremy M. Gilliland							
2	TKA implant design and kinematics	Timothy M. Wright	S599		15:55-16:55	N	12	120	
	Patient-specific surgery in TKA	Nathanael Heckmann							

JOA/AAOS combined symposium

タイトル	座長	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020
THA/TKA up to date: Latest findings to improve patient satisfaction	Wilford K. Gibson, 高尾正樹	S600- S602	2	23日 17:10-18:40	N	11, 12	122

理事会提案シンポジウム

No.	タイトル	座長	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 28-0020	他学会 単位	
1	日整会100年の歴史から	千葉一裕, 斎藤 充	S2-S3	1	21日 15:00-16:20					
2	整形外科領域におけるAI機器開発および導入の現状と課題	秋山治彦, 岩崎倫政	S12-S14	2		16:35-17:55				
3	整形外科医が輝き続けるための道—キャリアと働きやすい環境を支えるリーダーシップ—	山内かづ代, 山本りさこ	S22-S24	3		16:35-17:55				
4	転換期を迎えた骨転移診療—がん患者のwell-beingを目指した運動機能維持のために—	森岡秀夫, 河野博隆	S533-S535	11	22日 8:00-9:20	N	5	041		
5	ロコモ減少のための骨粗鬆症対策—多方面からのアプローチ—	大江隆史, 後藤公志	S587-S589	2	8:00-9:20	N	4, 13	078		
6	整形外科医のジェンダーギャップとこれからのキャリア形成を考える	山内かづ代, 原 仁美	S590-S592		9:35-10:55					
7	ビッグデータが整形外科医に及ぼす影響—診療報酬改定の観点から—	寺門 淳, 川口善治	S603-S605	3	8:00-9:20					
8	レジストリー研究—リアルワールドデータを用いたエビデンスの創出—	金村徳相, 斎藤 充	S606-S608		23日 9:35-10:55					
9	栄養, フレイル, 骨格筋量と循環器疾患—人生100年時代の循環器と運動器の連携—(日本循環器学会合同)	高橋尚彦, 河野博隆	S620-S621		4	13:25-14:45	N, Re	4, 13	106	
10	各国との国際交流—往古来今—	黒田良祐, 酒井大輔	S636-S638	5	13:25-14:45					
11	消化器外科手術と運動器疾患(日本消化器外科学会合同)	大江隆史, 齋浦明夫	S712-S714	9	15:55-17:15	N	13	119		
12	メタボ×ロコモの制圧—メタボがロコモを, ロコモがメタボを加速する!—(日本糖尿病学会合同)	小川 渉, 大江隆史	S1032-S1034	1	24日 9:15-11:15	N	1, 4	136		
13	災害時, 外傷患者の対応だけでいいの?—整形外科医の災害対応について考える—	神藤佳孝, 田尻康人	S1039-S1041	2		9:15-10:35				
14	運動器の再生治療現状と未来	中村雅也, 黒田良祐	S1050-S1052	3		9:15-10:35				
15	整形外科領域におけるcadaver surgical training (CST) の現状と展望	種市 洋, 高橋謙治	S1069-S1072	5		13:25-14:45				
16	本邦における関節疾患に対する幹細胞治療開発の現状	齋藤 琢, 目良 恒	S1078-S1080	6		13:25-14:45	N	1	158	

シンポジウム

No.	タイトル	座長	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
1	慢性腰痛症治療のコストベネフィット	牛田享宏, 五十嵐中	S9-S11	2	21日				
2	令和4年診療報酬改定における大腿骨近位部骨折診療のパラダイムシフト—その後の現状と課題—	澤口毅, 山本智章	S20-S21	3					
3	インプラント周囲感染治療を考える	森井健司, 山田浩司	S30-S32	4					
4	偽関節治療のすべて	松下隆, 竹中信之	S33-S35						
5	運動器診療を加速するリハビリテーション関連技術	津田英一, 緒方 徹	S41-S43	5		15:00-16:20	N, Re	1, 13	032
6	がん患者における運動器管理とリハビリテーション治療	酒井朋子, 酒井良忠	S44-S45			16:35-17:55			
7	骨格筋を中心とした運動器恒常性維持機構	浅原弘嗣, 今井祐記	S51-S53	6		15:00-16:20			
8	二次性骨折予防	酒井昭典, 宮腰尚久	S54-S56				16:35-17:55		
9	椎弓形成術	千葉一裕, 竹下克志	S403-S404	1	8:00-9:20				
10	脊椎内視鏡手術 UBE	富田 卓, 大島 寧	S405-S407		9:30-10:50				
11	脊柱変形	八木 満, 加藤 壯	S409-S410		14:00-15:20				
12	新規医療技術の導入における現状と課題	細金直文, 八木 満	S412-S414		16:50-18:10	N	1, 7	075	
13	なぜACL再建術/再再建術は失敗するのか？	前 達雄, 武富修治	S415-S417	2	8:00-9:20				
14	コンピューター/ロボット支援だからこそこできるTKA手術戦略(アライメントなど)	長谷川正裕, 中川 匠	S418-S420		9:30-10:50				
15	変形性膝関節症の術後スポーツ復帰—いつから, どこまでを許可するのか?—	大森 豪, 中川 匠	S423-S425		14:00-15:20				
16	スポーツ整形外科の薬物治療	中嶋耕平, 渡部厚一	S426-S427	3	8:00-9:20				
17	スポーツ診療における体外衝撃波	金森章浩, 渡邊耕太	S428-S430		22日	9:30-10:50			
18	肉ばなれ	高澤祐治, 中前敦雄	S435-S437		14:00-15:20				
19	股関節外科のリアルワールドデータの構築と活用	菅野伸彦, 稲葉 裕	S438-S440	4	8:00-9:20				
20	各種骨盤骨切り術の利点と欠点	帖佐悦男, 高平尚伸	S441-S442		9:30-10:50				
21	ロボット手術の現在地と今後の課題	松原正明, 高尾正樹	S445-S446		14:00-15:20				
22	RSA機種選択の変遷	菊川和彦, 谷口 昇	S447-S449	5	8:00-9:20				
23	非解剖学的腱板修復術 —適応と限界—	井樋栄二, 菅谷啓之	S450-S452		9:30-10:50				
24	腱板断裂の再断裂を防ぐための鏡視下腱板修復術の最前線	今井晋二, 菊川和彦	S455-S457		14:00-15:20				
25	凍結肩の診断, 治療up to date	後藤英之, 西中直也	S459-S461		16:50-18:10				
26	整形外科医が注意すべき神経疾患	三上容司, 今釜史郎	S462-S464		6	8:00-9:20			

No.	タイトル	座長	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
27	手指PIP関節近傍骨折(関節内含む)の治療戦略	小野浩史, 佐藤和毅	S465-S467	6	9:30-10:50				
28	難治性橈骨遠位端骨折の治療	長田伝重, 善家雄吉	S472-S474		14:00-15:20				
29	母指CM関節症の手術治療	面川庄平, 砂川 融	S476-S477		16:50-18:10				
30	関節炎滑膜のbench to bedside	高柳 広, 土屋遥香	S478-S479	7	8:00-9:20	N, R	1, 6	042	
31	RA高齢患者への整形外科手術介入について	松下 功, 伊藤 宣	S480-S482		9:30-10:50				
32	整形外科医としてするべきこと —イミネント骨折リスクを理解して二次性骨折を防ぐ—	酒井昭典, 永島英樹	S487-S488		14:00-15:20	N	2, 4	063	
33	難易度の高い骨粗鬆症・骨代謝疾患の診療	宮本健史, 齋藤 琢	S490-S492	8	16:50-18:10				
34	足関節捻挫治療のアップデート	熊井 司, 吉村一朗	S493-S495		8:00-9:20				
35	扁平足再考 —小児から成人までの病態と治療戦略—	窪田 誠, 生駒和也	S496-S498		9:30-10:50				
36	脆弱性骨折 —最近の話題—	井上尚美, 野田知之	S520-S522	10	8:00-9:20				
37	多発外傷における骨折治療	峰原宏昌, 菅沼省吾	S523-S524		9:30-10:50				
38	脆弱性骨盤骨折	伊賀 徹, 野田知之	S527-S528		14:00-15:20				
39	災害時の整形外科傷急性期治療	井口浩一, 黒住健人	S530-S532		16:50-18:10				
40	骨・軟部腫瘍診療のstate-of-the-art	阿江啓介, 遠藤 誠	S536-S538	11	9:30-10:50				
41	ゲノム医療とゲノム研究	川島寛之, 小林 寛	S541-S543		14:00-15:20				
42	骨転移診療における整形外科医の役割	河野博隆, 野田知之	S545-S547		16:50-18:10				
43	小児外傷	太田憲和, 金城 健	S548-S550	12	8:00-9:20				
44	骨系統疾患 —ライフステージごとの問題点について—	鬼頭浩史, 滝川一晴	S551-S553		9:30-10:50				
45	ロコモ最新アップデート	中川種史, 帖佐悦男	S556-S558		14:00-15:20				
46	フレイル・ロコモ克服から健康長寿へ	吉村典子, 若林秀隆	S560-S561	1	16:50-18:10				
47	過去100年の進歩 —基礎—	岩崎倫政, 岡田誠司	S579-S581		8:00-9:20	N	1	077	
48	過去100年の進歩 —臨床—	松本守雄, 中島康晴	S584-S586		17:20-18:40				
49	AI	岡 敬之, 高尾正樹	S639-S641	5	15:00-16:20				
50	疾患活動性をコントロール可能な時代のリウマチ手術タイミング	仁木久照, 高木理彰	S657-S659	6	13:25-14:45				
51	関節リウマチ患者のトータルマネジメント —100年をつなぐ未来への提言—	石川 肇, 門野夕峰	S660-S662		15:00-16:20	N	6, 13	117	
52	医療政策・働き方改革	田中 栄, 大鳥精司	S683-S684	7	15:55-17:15				
53	多能性幹細胞を用いた運動器移植・再生医療開発	戸口田淳也, 宮本健史	S698-S700	8	15:55-17:15				

No.	タイトル	座長	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位	
54	人工関節感染症update	稲葉 裕, 斎藤 充	S725-S727	10	23日					
55	ロコモ20年の歩みとこれから	新井貞男, 竹下克志	S740-S742	11						15:55-17:15
56	整形外科の未来を守るために —診療報酬改定への対応—	田尻康人, 寺門 淳	S756-S758	12						15:55-17:15
57	大学医局の現在地と未来像	三上容司, 山崎正志	S776-S778	13						15:55-17:15
58	医療DX	森井太郎, 森崎 裕	S1059-S1061	4	24日					
59	核酸医療の発展による運動器・整形外科疾患の制圧	浅原弘嗣, 阿部 洋	S1096-S1098	8						9:15-10:35
60	運動器検診 —10年を経過して—	森山正敏, 山下仁司	S1103-S1105							13:25-14:45

日本整形外科学会奨励賞受賞者講演

No.	タイトル	演者	抄録	会場	日時	
1	PI3K/AktシグナルはScx陽性腱細胞とTppp3陽性腱鞘滑膜細胞を制御して新生児の腱再生を促す	後藤篤史	S648	6	23日	
2	DNA脱メチル化薬は滑膜肉腫前臨床モデルに対して抗腫瘍効果を示す	長谷川延彦				
3	片開き式頸椎椎弓形成の固定椎弓数削減法は全椎弓固定と比して非劣性である —多施設ランダム化比較試験術後2年時結果—	玉井孝司	S649			8:00-9:00
4	腰椎椎間板ヘルニア患者に対する高純度硬化性ゲルを用いた探索的臨床試験	山田勝久				

ランチョンセミナー

No.	タイトル	講師	共催	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位	
1	睡眠の質が疼痛感受性に与える影響 —OAとRAにおける運動器疼痛マネジメントの新たな視点—	鉄永倫子	大正製薬(株)	S8	2	21日 12:00-13:10	N, R	6	023		
	関節リウマチの痛みに対するTNF阻害の基礎と臨床	西田圭一郎									
2	治療に繋がる骨粗鬆症検診へのosteoporosis liaison servicesの取り組みと椎体骨折の外來 fracture liaison services	黒川正夫	ユーシービー ジャパン(株)	S19	3		N	4	024		
	骨粗鬆症の新ガイドライン2025から求められる治療アルゴリズムとデータベースリサーチ	山本智章									
3	大腿骨頸部骨折に対する骨折牽引台を使った前方アプローチ・SAAFのススメ	馬場智規	ビー・ブラウン エースクラップ (株)	S29	4		N	2,11	025		
	骨折牽引台×dual mobilityがTHAに革命を起こす	石井聖也									
4	レーダーチャートで読み解く痛みの治療戦略 —腰下肢痛・神経障害性疼痛に対する漢方治療—	矢数芳英	(株)ツムラ	S40	5		N	7,8	026		
5	高電磁波誘導治療器super inductive system(SIS)の臨床応用とその効果	中里伸也	BTL Japan (株)	S50	6		N	8,13	027		
6	知って得する肩のプライマリケア —「あまりよくなりませんので整形外科に行っています」と言われたことはありませんか?—	今井晋二	日本臓器製薬 (株)	S66	7		N	9,13	021		リ学
7	限られた医療資源の中で、早期手術の恩恵を最大にできる頸椎頸髄損傷患者とは —ある日、救急科へ出向した整形外科医の奮闘—	村田鎮優	オスフェリオン バイオマテリアル (株)	S83	8		N, SS	7	022		
	頸椎症性脊髄症の手術選択 —年齢で変わる最適解—	寺口真年									
8	Knee OAに挑む自家培養軟骨細胞移植術 —膝OA治療を変えられるか—	井石智也	(株)ジャパン・ ティッシュ エンジニアリング	S92	9		N	1,12	020		
	自家培養軟骨移植術の適正使用 —患者背景からみた術後成績への期待—	赤木龍一郎									
9	血友病治療のアンメットニーズ克服のための関節エコー	大野久美子	中外製薬(株)	S103	10	N	3,6	019			
	小児領域における関節超音波のつかいどころ	弘野浩司									
10	3D-MRI疫学研究が明らかにした半月板構造変化が変形性膝関節症に及ぼす影響	関矢一郎	富士フイルム 富山化学(株)	S115	11	N	1,12	017			
11	骨の運命は変えられるか —骨粗鬆症ガイドライン改訂を踏まえて—	蛭名耕介	帝人ファーマ(株)/ 帝人ヘルスケア(株)	S131	12	N	4	016			
12	エコーとMRIの融合が切り拓く整形外科診療の最前線 —Smart fusionが導く解剖理解の新世界—	面谷 透	キヤノンメディカル システムズ(株)	S143	13	N	1	018			
13	PROMs and future perspectives	Andrew Price	メダクタ ジャパン(株)	S422	2	22日 12:35-13:45	N	12	062		
	KA-TKA専用インプラントデザインの臨床的利点	石川正洋									

No.	タイトル	講師	共催	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位	
14	The real-world impact of CT-based robotics in TKA: From operating room to outcomes	Simon W. Young	日本ストライカー(株)	S434	3	22日 12:35-13:45	N	12	061		
	なぜ今short triple taper stemが市場を席捲しているのか?	仁平高太郎									
15	Development rationale and early clinical experience with the Catalysem collared tri-tapered uncemented stem in primary total hip arthroplasty	George Haidukewych	スミス・アンド・ネフュー(株)	S444	4		N	11	060		
16	DX/AIと共に成長する整形外科医 —Juniorからseniorまで—	森崎 裕	(株)クオトミー	S454	5		N	14-5	059		
	外科系チーム医療に関わるDX/AIソリューションの開発と社会実装	大谷圭一									
17	バイオシミュレーで達成するリウマチ薬物療法の持続可能な開発目標	三浦靖史	あゆみ製薬(株)	S471	6		N, R	6	058		
18	脆弱性骨折例に対する骨粗鬆症治療は整形外科医の責務である	萩野 浩	アムジェン(株)/アステラス製薬(株)	S486	7		N	2,4	057		
19	骨粗鬆症における地域連携の実際 —成果と課題—	沖本信和	旭化成ファーマ(株)	S500	8		N	4	051		
20	骨粗鬆症の診断のピットフォール —痛みに潜む希少疾患骨軟化症を見逃さない—	齋藤 琢	協和キリン(株)	S514	9		N	4,5	053		
	腫瘍性骨軟化症 —脆弱性骨折のパターンを知り早期診断を—	小林 寛									
21	インプラント関連術後感染の制圧に向けた研究 —なぜヨードなのか?—	白井寿治	ジンマー・バイオメット(同)	S526	10		N	11	052		
	周術期感染を抑制する人工股関節全置換術 —ヨード処理技術の臨床応用と展望—	加畑多文									
22	脊髄損傷に対する骨髄間葉系幹細胞治療の経験	石井桂輔	ニプロ(株)	S540	11		N, SS	1,7	055		
	脊髄損傷に対する骨髄間葉系幹細胞治療 update	廣田亮介									
23	肩腱板断裂治療の変遷と将来展望	菅谷啓之	久光製薬(株)	S555	12	N	9	054			
24	低エンドトキシン化アルギン酸ゲルを用いた軟骨修復材の開発から臨床応用まで	岩崎倫政	持田製薬(株)	S571	13	N	1,12	056			
25	スマホ時代における頸椎疾患と神経障害性疼痛 —ランダム化比較研究のエビデンスと新たな展望—	平井高志	第一三共(株)	S596	2	N, SS	7	098			
	腰椎椎間板ヘルニアの治療と神経障害性疼痛 —新しいエビデンスの創出—	鈴木秀典									
26	関節包宇靭帯温存とdual mobility headによる personalized THA	坂越大悟	ナカシマヘルスフォース(株)	S612	3	N	11	096			
	THAのための非侵襲型ポータブルナビゲーションの現在と未来	高田亮平									

No.	タイトル	講師	共催	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
27	AI時代に問われる医師の原点 —痛みと共感が つなぐ百年の架け橋—	皆川洋至	コニカミノルタ ジャパン(株)	S619	4	23日 12:00-13:10	N	14-5	097	
28	整形外科診療の完全変態 —エコーが拓く神経 の痛み診療—	宮武和馬	アイソ(株)/ 酒井医療(株)/ サムスン電子 ジャパン(株)	S635	5		N	8	099	
29	関節リウマチ治療戦略におけるJAK阻害薬の果 たす役割 —ウバダシチニブの有用性と適正使 用—	高橋伸典	アッヴィ(同)	S656	6		N, R	6	094	
30	変形性関節症に対する細胞治療の臨床成績, 作 用機序と開発	齋藤 琢	CPC(株)	S676	7		N	1,12	095	
31	骨粗鬆症治療における「骨を造る」重要性 —ガイドライン改訂とバイオシミラーが拓く新たな 潮流—	蛭名耕介	持田製薬(株)/ 科研製薬(株)	S693	8		N	4	102	
32	転倒骨折リスク低減床材の性能評価理論と標準 化	伊藤安海	TOPPAN(株)	S707	9		N	2,13	093	リ学
	介護・リハビリ施設における転倒事故と安全床の 有用性	来栖宏二								
33	TKAにおけるAugmented Reality Knee Navigation Systemの有用性	福永健治					N	12	101	
	Hybrid personalized alignment人工膝関節全置 換術におけるAugmented Reality Knee携帯型ナ ビゲーションシステムの有用性	石川正洋	ジンマー・ バイオメット(同)	S720	10					
34	脊椎手術支援ロボット導入の意義 —限界を踏まえた臨床現場での活用と展望—	海渡貴司	メトロニック ソファモダネック (株)	S735	11		N, SS	7	104	
35	Forgotten jointを旨とした骨折牽引台を使用し た前方アプローチによる人工股関節置換術	馬場智規				N	11	100		
	ロボティックアーム手術支援システムと前方アプ ローチの融合がもたらすもの	藤井 昌	日本ストライカー (株)	S751	12					
36	少子高齢社会における民間整形外科の取り組み —腰痛治療のさらなる品質向上を目指して—	西能 健				N, SS	7	103		
	腰痛診療ガイドライン2019を踏まえた薬物療法の 実践 —明日から使える治療戦略のヒント—	稲毛一秀	日本臓器製薬 (株)	S769	13					
37	変わる肥満症診療 —Body weight-centric orthopaedic care の可能性—	小川 涉	日本イーライリリー(株)/ 田辺ファーマ(株)	S1045	2	N	14-5	152		
38	創傷治癒から考える実践的閉創テクニック —SSIや皮膚潰瘍, 肥厚性癬痕を防ぐには—	小川 令	ジョンソン・ エンド・ ジョンソン(株)	S1056	3	N	14-5	150		
	伸展部・露出部における創閉鎖を再考する	寺田忠司								
39	明日から使える! 変形性膝関節症に対する超音 波診療	中瀬順介	科研製薬(株)/ 生化学工業(株)	S1065	4	N	12	151		
40	骨形成促進薬は期待に応えることができるのか?	大村文敏	アムジェン(株)/ アステラス製薬(株)	S1068	5	N	4	147		

No.	タイトル	講師	共催	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
41	生成AI×臨床・研究の最前線	園生智弘	TXP Medical(株)	S1077	6	24日 12:00-13:10	N	14-5	148	
42	一般整形外科医が知っておきたい最新の関節リウマチ治療の動向	蛭名耕介	日本イーライ リリー(株)	S1088	7		N, R	6	149	
	一般整形外科医が知っておきたい、リウマチ性疾患の鑑別と治療	高橋伸典								
43	肥満症 一病態解明の進歩と最近の薬物療法―	益崎裕章	ノボ ノルディスク ファーマ(株)	S1102	8		N	14-5	144	
44	乾癬性関節炎の診断と治療戦略 ―コツと落とし穴―	門野夕峰	アッヴィ(同)	S1131	10		N, R	6	145	
	体軸性脊椎関節炎診療のTips	富田哲也								
45	関節リウマチ診療における関節エコーの実践的活用とメドジェクト皮下注剤の臨床的意義	岡野匡志	エーザイ(株)	S1142	11		N, R	6	146	
46	骨粗鬆症治療の最前線 ―骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025を踏まえて―	宗圓 聡	第一三共(株)	S1155	12		N	4	143	
47	変形性膝関節症における軟骨下骨病変の意義	阿漕孝治	ストルツメディカル・ ジャパン(株)/ (株)カネカ/ (株)バイオマスター	S1171	13		N	12	142	
	変形性膝関節症の軟骨下骨病変に対する治療戦略 ―体外衝撃波治療からMSC療法まで―	中里伸也								

アフタヌーンセミナー

No.	タイトル	講師	共催	抄録	会場	日時	単位 種別	N必須 分野	認定番号 26-0020	他学会 単位
1	Prevention of common complications after THA	Javad Parvizi Hyonmin Choe	京セラメディカル (株)	S504	8	22日 16:50-17:50	N	11	074	
2	人工膝関節置換術後の静脈血栓塞栓症予防の up-to-date —下肢末梢神経電気刺激デバイスの 使用経験を含めて—	松本知之	オーソペンタス (株)	S518	9	22日 15:35-16:35	N	12	065	
	人工膝関節全置換術後の遷延性術後痛に対す る新たな治療戦略としてCoolief冷却高周波療法 を用いた短期治療成績について	壺坂正徳								
3	TKAにおける客観的データ(passive data)が明らか にしつつあるリアルワールドデータ	平中崇文	ジンマー・ バイオメット(同)	S519	9	22日 16:50-17:50	N	12	076	
	Big dataで挑むTKA最適解の追求	五十嵐健太郎								
4	一般整形外科医が知っておきたい最新の関節リ ウマチの診断と治療 —ガイドライン改訂を踏ま えて—	蛭名耕介	旭化成 フアーマ(株)	S575	13	22日 15:35-16:35	N, R	6	064	
	一般整形外科医が知っておきたい関節リウマチ の治療	高橋伸典								
5	PRPの中の白い巨塔 —見えざる主役は誰か?—	清水勇樹	Arthrex Japan (同)	S739	11	23日 14:40-15:40	N	1	113	
6	手指の変形性関節症(HOA)に対するautologous protein solution (APS)療法	河野正明	ジンマー・ バイオメット(同)	S755	12		N	1	114	手
	変形性関節症に対するautologous protein solution (APS)療法の「その後」	桑沢綾乃								

日整会認定教育研修 受講取得単位 (認定単位種別)

N:日整会専門医単位 S:スポーツ医単位 R:リウマチ医単位
SS:脊椎脊髄病医単位 Re:運動器リハビリテーション医単位

日整会認定教育研修 受講必須分野 (専門医必須14分野)

- 1 整形外科基礎科学
 - 2 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)
 - 3 小児整形外科疾患(先天異常, 骨系統疾患を含む, ただし外傷を除く)
 - 4 代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)
 - 5 骨・軟部腫瘍
 - 6 リウマチ性疾患, 感染症
 - 7 脊椎・脊髄疾患
 - 8 神経・筋疾患(末梢神経麻痺を含む)
 - 9 肩甲帯・肩・肘関節疾患
 - 10 手関節・手疾患(外傷を含む)
 - 11 骨盤・股関節疾患
 - 12 膝・足関節・足疾患
 - 13 リハビリテーション(理学療法, 義肢装具を含む)
 - 14-1 医療安全
 - 14-2 感染対策
 - 14-3 医療倫理
 - 14-4 その他の共通講習
 - 14-5 1～13に当てはまらない領域講習
-

14-1～4は機構認定専門医共通講習.

14-1～3は機構認定専門医必修講習で, 5年間で各1回以上受講しなければならない.